

館山市地域公共交通網形成計画 (現況整理)

未定稿

※本資料については、一部に確認や更なる調査を要する箇所が残っています

2019年 2月

目 次

1. 上位・関連計画における公共交通政策	1
(1) 第4次館山市総合計画（2016年（平成28年））	1
(2) 館山市都市計画マスタープラン（平成21年4月）	2
(3) 館山市総合戦略（平成29年8月）	4
(4) 観光立市たてやま行動計画（平成17年6月）	6
(5) 地域の魅力アップモデル事業（平成16年5月）	7
(6) 上位・関連計画のまとめ	8
2. 館山市の現況等	9
(1) 位置及び地勢	9
(2) 地形	10
(3) 地区区分	11
(4) 人口及び世帯数	12
(5) 都市計画	20
(6) 交通特性	22
(7) 施設分布状況	27
(8) 公共交通の現状	32

1. 上位・関連計画における公共交通政策

(1) 第4次館山市総合計画（2016年（平成27年度））

計画期間	①基本構想：10年間（平成28年度～平成37年度） ②基本計画：[前期] 5年間（平成28年度～平成32年度） [後期] 5年間（平成33年度～平成37年度）
将来像	笑顔あふれる 自然豊かな 「あったか ふるさと」館山
基本目標	<p>■地域根ざした産業でにぎわいと豊かさあふれるまち</p> <p>○観光の振興 館山港を活用した「海辺のまちづくり」、豊かな地元食材による「食のまちづくり」を推進し、「観光立市たてやま」のさらなる発展を図ります。</p> <p>○交流拠点施設を核とした地域活性化 人・物・情報等が行き交う交流拠点施設として、「道の駅 南房パラダイス」や「“渚の駅”たてやま」に加えて、公設地方卸売市場用地跡地への「食のまちづくり」拠点施設の整備を推進し、それぞれを連携させた取組により、交流人口の増加に努めます。</p> <p>■生活基盤が充実し快適で暮らしやすいまち</p> <p>○道路環境の充実と河川整備の促進 円滑な道路交通を確保するため、幹線道路の整備を進めるとともに、生活に直結した道路の改良や排水整備の充実、安全で快適な歩道の整備等を計画的に行っていきます。</p> <p>○交通体系の充実 地域内の交通利便性を高め、市民のみならず、来訪者にも利用しやすい交通体系と「地域の足」の確保・維持に努めます。 また、公共交通事業者に働きかけ、高速バスや鉄道の利便性向上と広域交通網の充実に努めます。</p>
前期基本計画	<p>●市民や公共交通事業者や関係機関と連携・協議しながら、市民や来訪者の交通利便性の確保・維持に努めます。</p> <p>●高速バスや鉄道の利便性の向上を関係機関に働きかけ、広域交通網の充実と維持に努めます。</p> <p>（1）地域交通網の確保・維持</p> <p>・域内公共交通の確保・維持 公共交通事業者及び近隣市町との調整を図り、域内公共交通の手段・手法について検討を行います。</p> <p>・（2）広域交通網の充実</p> <p>・高速バスネットワークの整備促進 通勤・通学者にとって利用しやすい高速バス定期券の検討、成田空港や東京ディズニーリゾート、大型商業施設などと結び、新たな高速バス路線の整備充実について、交通事業者に働きかけます。</p>

(2) 館山市都市計画マスタープラン (2009年(平成21年度))

都市の将来像	『住み良い暮らし 交流・資源 魅力のまち館山』
将来人口	総人口：46,100人(平成37年)
都市づくりの目標	<p>◇誰もが住み良いと感じられるまちづくり</p> <p>○歩道や情報通信基盤の整備等による、利便性の高い生活空間の形成</p> <p>○交通結節機能や商業・業務機能等を備えた中心市街地の再構築</p> <p>○都市の中心部と集落地、周辺都市との連携機能を強化する、公共交通機能の確立</p>
全体構想	<p>①土地利用の構想・方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的な土地利用 ・市街地外から新たな定住者の誘導 ・良好な住環境を創出 ・歩いて暮せるまちの実現 <div data-bbox="678 728 1268 1265" data-label="Figure"> </div> <p style="text-align: center;">都市構造図</p> <p>②交通体系の構想・方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路網の整備を促進 ・必要な道路網の整備と高齢者、障害者等の移動円滑化(バリアフリー等) ・道路網全般にわたり見直し <div data-bbox="694 1500 1252 1993" data-label="Figure"> </div> <p style="text-align: center;">交通体系図</p>

	<p>③交通施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道と路線バス等の連携と歩行系交通機能の強化 ・誰でも円滑な移動ができる交通体系の形成 ・地域交通としての充実を図るための方策 <p>①鉄道</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利便性向上に向けた事業者への働きかけを推進 ・鉄道の利用促進について関係機関・事業者と調整 <p>②高速バス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利便性向上に向けた事業者への働きかけを推進 ・利用促進について関係機関・事業者と調整 <p>③地域交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の路線バスの機能向上 ・バス網の再編や循環バスの導入 ・徒歩圏を考慮したバス停の再配置 ・デマンドバスや乗合タクシー等の導入 ・自主的な送迎のあり方について検討 ・市内各駅等の主要な交通結節点へのアクセス機能の向上 ・観光棧橋と館山駅を結ぶ路線（循環）バスの配置 ・公共交通の利用促進に向けた住民への啓発 <p>④海路</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沿岸都市とのアクセス性向上 ・新たな地域との交流 ・定期航路等の海路の早期開設 ・館山湾内クルーズ船の就航による観光振興 <p>⑤交通結節点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス交通及び自動車交通の交通結節機能強化 ・パーク・アンド・（バス）ライド駐車場等の整備 ・交通広場の機能充実を図ります。 ・館山駅西口に高速バスの乗降機能の配置 ・パーク・アンド・（バス）ライド駐車場整備 ・多目的観光棧橋及び交流拠点“渚の駅”の公共交通との接続性の確保・駐車場の配置 ・サイクル・アンド・（バス）ライド駐車場整備 ・バス待合スペースの確保
--	--

(3) 館山市総合戦略 (2015年(平成27年度))

(3)-1 館山市人口ビジョン

目指すべき将来の方向	<p>◆館山市の特性を活かした多様な「しごと」の創出 都心へのアクセス性に優れた地理的特性や魅力あふれる海に囲まれた自然環境、食の豊かさ、都心に近い観光地など、館山市の特性を活かした多様な「しごと」を創出し、「働く場」の拡大と地域の活性化を図ります。</p> <p>◆館山市への「ひと」の流れをつくる 館山市の魅力を積極的に発信し、交流人口の増加を図るとともに、UJIターン者や、孫ターン者、二地域居住者の増加など、館山市への「ひと」の流れを生み出す取組を強化します。 特に、人口減少に歯止めをかけ、地域活性化にもつながる若い世代の移住・定住の促進に努めます。</p> <p>◆結婚・出産・子育てのしやすい「まち」づくり 豊かな自然環境に恵まれ、子育てに適した環境を有する館山市は、千葉県内で高い水準の合計特殊出生率を誇ります。 若い世代が安心して、結婚・出産・子育てしやすい環境づくりをさらに積極的に進め、子育て世代に選ばれる「まち」を目指します。</p> <p>◆安全・安心で、持続可能な「まち」づくり 「まち」の活力を維持し、館山市が、将来にわたって安定的に持続していくために、今ある「まち」の魅力に磨きをかけるとともに、子どもから高齢者までが「住み続けたい」と思える、安全・安心で生活しやすい「まち」づくりを進めます。</p>
人口の将来展望	<p>社人研推計準拠による人口推計では、2060年の館山市の人口は25,694人まで減少するとされます。</p> <p>しかし、目指すべき将来の方向性に向かった取組を進めることで、合計特殊出生率と移動率が目標値のとおり改善されれば、2060年には30,013人となり、社人研推計準拠によると推計人口と比較して、約4,000人の人口減少抑制効果が見込まれます。</p>

<p>基本目標</p>	<p>◆基本目標①：“海”の魅力に磨きをかける ～海の魅力アップ～ “海”の魅力にさらに磨きをかけ、「館山ならではの」、「館山でしかできない」、「館山らしさ」を追求し、近隣市町と広域的な連携を図りながら広く発信し、多くの人々や企業を呼び込み、既存の観光産業や飲食・サービス業等のビジネスチャンスを創出・拡大するとともに起業支援にも力を入れ、新たな仕事の創出、地域経済の活性化を図っていきます。</p> <p>◆基本目標②：“食”の豊かさで人をひきつける ～食の豊かさアップ～ 館山の“食”の恵みを地域内で流通させる体制を構築するとともに、生産者の経営基盤を強化し、生産力・供給力の向上を図ります。 また、市民や市内事業者等へ、地域の食材・食文化に対する理解を促進し、その素晴らしさを次世代や来訪者に伝えていくことで、市民が「館山の食べ物はおいしい」と全国に誇れるまち、また、来訪者から「館山のおいしい食べ物をまた食べに行きたい」と思われるまちを目指します。</p> <p>◆基本目標③：“若者”の夢と希望をかなえる ～若者の元気アップ～ 多様な就業の場の創出、起業や創業にチャレンジする若者への積極的な支援、職業のマッチングなどにより、“若者”の夢と希望をかなえ、経済的・精神的に安定できる仕事の確保に努めます。 また、若者のアイデア・行動力を活かし、まちの活性化を図るとともに、結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、「切れ目のない」一貫した支援体制を構築し、豊かで充実した生活を送れるよう、市を挙げて若者の定住促進に取り組みます。</p> <p>◆基本目標④：みらいに誇れる“ふるさと愛”をはぐくむ ～ふるさとへの誇りアップ～ “ふるさと館山”に対する誇りと愛着心をはぐくみ、地域の主体として市民が積極的にまちづくり・地域づくりに参加できる環境と、地域が一体となって支え合う体制を整備していきます。 また、将来の人口規模を見据え、行政サービスのあり方を見直し、効率的な行政運営の実現に努めていくとともに、住み慣れた地域で元気に暮らし続けることができるよう、安全・安心なまちづくり、医療・福祉の充実と健康増進活動の推進、公共交通の維持や道路網の整備などに継続して取り組んでいきます。</p> <p>■公共交通の確保・維持 市民や公共交通事業者、関係機関と連携・協議しながら、市民や来訪者の移動手段となる<u>生活路線バスの確保・維持</u>に努めるとともに、<u>高速バスや鉄道の利便性向上</u>について、関係機関に働きかけ、広域交通網の充実を目指します。</p> <p>【具体的な施策内容（主な事業等）】</p> <ul style="list-style-type: none">・ <u>公共交通の利用促進</u>・ <u>高速バスネットワークの整備促進</u>・ <u>鉄道の維持と利便性の向上</u>
-------------	--

(4) 観光立市たてやま行動計画 (2005年(平成17年度))

<p>目標</p>	<p>第5章 交通の利便性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>高速道路交通網の整備促進</u> ・ <u>地域内における第1次交通と第2次交通の結節による交通利便性の向上</u> ・ <u>館山港を活用した海辺のまちづくりの推進</u> ・ <u>海上交通の開設に向けた取り組みを展開する。</u> <p>【事業】</p> <p>◆高速道路交通網の整備促進等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 南房総地域内の来訪者周遊型観光の向上を図るため、地域高規格道路館山鴨川道路の早期着工 ・ シンボルロードである都市計画道路船形館山港線（北条海岸部分）に直接アクセスするための（仮称）船形バイパスの整備 ・ 高速バスの運行拡充を促進 <p>◆地域内の循環性の向上と第1次交通と第2次交通の結節</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シンボルロードである都市計画道路船形館山港線（北条海岸部分）の整備 ・ 地域内交通のボトルネック箇所の改善 ・ 来訪者を適切に誘導する案内看板（サイン）の設置 ・ 来訪者のニーズに合わせた第1次交通と第2次交通の円滑な結節 ・ 快適な周遊型観光を提供するための環境整備 <p>◆海辺のまちづくり・海上交通の開設促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クルーズ客船などの寄港を、「館山港を活用した地域振興」につなげる ・ 伊豆半島や大島などとの定期航路開設に向けた積極的な誘致活動 ・ 館山港を拠点とした交流人口の拡大
<p>具体的事業</p>	<p>事業No.44：高速道路交通網の整備促進等 事業No.45：地域内の循環性の向上と第1次交通と第2次交通の結節 事業No.46：海辺のまちづくり・海上交通の開設促進</p>

(5) 地域の魅力アップモデル事業 (2004 年 (平成 16 年度))

<p>基本方針</p>	<p>①自立した経済圏の形成を支えるまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆滞留や周遊ができる賑わいのある観光交流空間を形成します。 <ul style="list-style-type: none"> I. 海上の交流と交易を復活するため、館山港の整備を促進します。 II. 域内と域外の連絡性を高めるため、整備が進む高速道路などの広域幹線道路網と地域内の各拠点を連結する道路交通網を形成します。 ◆公共交通のターミナル機能やネットワーク機能を強化し、交通手段の多様性と利便性を高めます。 <p>②安心して暮らせる「質」の高い生活環境の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆高齢者や障害者が安心して移動できる道路環境の整備や利便性の高い公共交通システムの導入など、バリアフリーのまちづくりを推進するとともに、高齢者が活躍する場面づくりや高齢者の健康増進と介護の充実などによる定住環境づくりを推進します。 ◆来訪者に心地よい印象を与え、再来を誘発する街並み空間づくりを推進し、多くの人々が海に繰り出したくなるような海辺環境の整備を行います。 ◆市民生活や行政サービスの充実を図るために情報技術 (IT) を活用します。 ◆公共施設や交通施設などの耐震機能を高め、災害予防、応急復旧体制の整備を進めます。
<p>各地区の整備方針 及び 主要な事業</p>	<p>①中心市街地活性化地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆観光客の利便にする機能の導入 <p>主に鉄道やバスを利用する観光客に対して、地区内の低・未利用地等を有効に活用し、新鮮な海の幸などを提供する屋台村の形成等によって、新たな観光需要を掘り起こします。</p> ◆高齢者にやさしい商店街としての再生 <p>ソフト施策としては、地域コミュニティの優位性を活かしたマーケティング戦略として、コミュニティビジネスの手法を活用した「御用聞き」・「配達」など店舗の形にとられない商業活動の復活や高齢者を優遇するシルバーカードの発行、各店舗が共同したワンストップ体制の構築などについて、商店街の経営者とともに検討します。</p> <p>ハード施策としては、安全とゆとり、さらに魅力ある商業空間を創造するため、緑地などの憩いの空間を創出するなど、整備が可能なところから順次、安全でバリアフリーな歩行者空間を創造します。</p> ◆他の観光拠点等とを結ぶ公共交通システム <p>館山駅から他の観光拠点や各地区を連絡する小型バスやワゴンなどを使用した新たなコミュニティ交通機能やレンタサイクルなどの新たな交通システムの導入を検討します。</p> <p>また、通勤等の館山駅のターミナル機能の強化を図るため、パークアンドライドを可能とする駐車場の確保についても検討します。</p>

(6) 上位・関連計画のまとめ

本市における上位・関連計画に位置づけられている交通政策等を整理すると以下のよう
にまとめられる。

名 称	策定 年度	方 針
第4次館山市総合計画	H28	<ul style="list-style-type: none"> ○観光の振興 ○交流拠点施設を核とした地域活性化 ○住環境の充実と市街地の利便性向上 ○道路環境の充実と河川整備の推進 ○交通体系の充実 ○域内公共交通の確保・維持 ○高速バスネットワークの整備促進
館山市都市計画マスタープラン	H21	<ul style="list-style-type: none"> ○誰でも円滑に移動できる交通体系の形成 ○高齢者等の移動円滑化 ○高速バスの利用促進 ○既存路線バスの機能向上 ○バス網の再編 ○循環バスの導入 ○デマンドバスや乗合タクシーの導入検討 ○公共交通不便地域の自主的な送迎のあり方の検討 ○観光棧橋と館山駅を結ぶ循環バスの配置 ○公共交通の利用促進に向けた住民への啓発 ○定期航路等の海路の早期開設 ○館山湾内クルーズ船による観光振興 ○市内鉄道駅へのパーク・アンド・ライド駐車場等の整備 ○高速バスの乗降機能配置検討（館山駅西口） ○サイクル・アンド・ライド駐車場整備（主要集落エリア） ○バス待合スペースの確保
館山市総合戦略 館山市人口ビジョン	H29	<ul style="list-style-type: none"> ○将来人口：30,013人（2060年） ○公共交通の維持・確保
館山市総合戦略 館山市まち・ひと・しごと 創生総合戦略	H29	<ul style="list-style-type: none"> ○将来の人口規模を見据えた公共交通の維持や道路網の整備 ○公共交通の利用促進 ○高速バスネットワークの整備促進 ○鉄道の維持と利便性の向上
観光立市たてやま行動計画	H17	<ul style="list-style-type: none"> ○高速道路交通網の整備促進 ○地域内の循環性の向上と第1次交通と第2次交通の結節 ○海辺のまちづくり・海上交通の開設促進
地域の魅力アップモデル事業	H16	<ul style="list-style-type: none"> ○広域幹線道路網と地域内各拠点を連結する道路交通網 ○公共交通ターミナル機能やネットワーク機能の強化 ○高齢者や要会社が安心して移動できる道路環境整備 ○利便性の高い公共交通システムの導入 ○新たなコミュニティ交通機能・交通システムの導入

2. 館山市の現況等

(1) 位置及び地勢

館山市は、千葉県房総半島南端に位置し、西は東京湾・太平洋に面し、東から南にかけて南房総市に接している。

面積は約 110.15 km²で、内陸部には緑豊かな田園や丘陵が広がっており、南房総国立公園に指定されている変化に富んだ海岸線は 34.3 kmに及び、別名「鏡ヶ浦」とも呼ばれる。

館山湾越しに望む富士山や夕陽の絶景、美しい砂浜が広がる平砂浦海岸など、数多くの景勝地が存在する。

平成9年12月に東京湾アクアライン、平成19年7月に館山自動車道が開通し、東京方面との時間距離・物理的距離が短縮され、都市間移動が一層便利になった。



図 館山市の位置

(2) 地形

房総半島の丘陵は、上総丘陵と安房丘陵に分けられ、館山市は、安房丘陵の南部に位置し、東の高塚山（南房総市）が丘陵の最高点（標高 216m）で、そこから洲崎に向かって標高 200m以下の山が並んでいる。

丘陵の周囲には、館山駅周辺の館山低地、南西部の平砂浦低地などの平野が分布しており、市街地や集落を形成している。

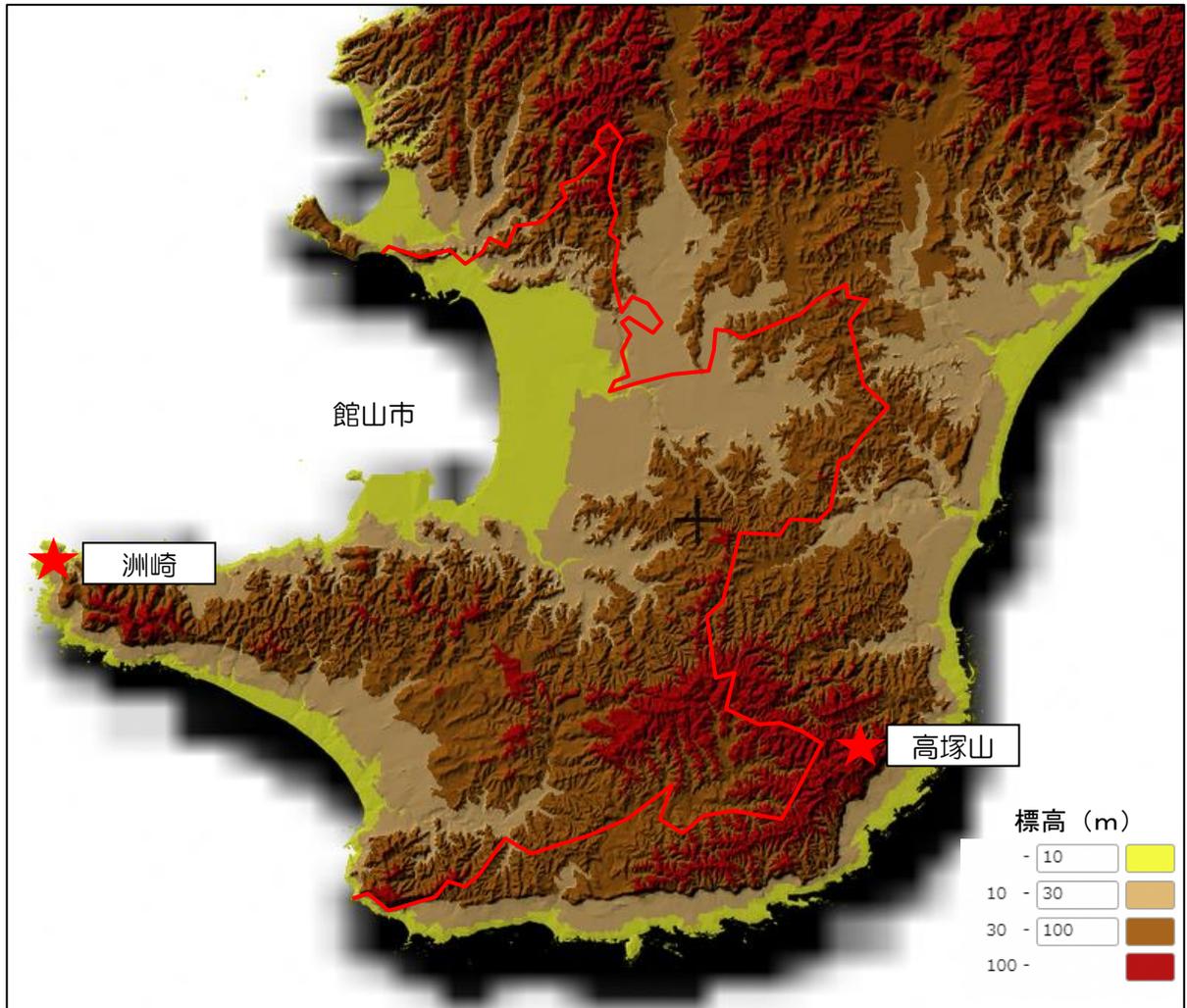


図 館山市の標高図（資料：国土地理院 HP）

(3) 地区区分

館山市は、1939年（昭和14年）に館山北条町、那古町、船形町が合併し誕生し、その後、1954年（昭和29年）に西岬村、九重村、豊房村、神戸村、館野村、富崎村を編入し、現在の市域となった。



図 地区区分

(4) 人口及び世帯数

(4) - 1 人口・世帯数の推移

① 館山市

館山市の人口は、1950年（昭和25年）の59,424人をピークに、それ以降は減少に転じ、2015年（平成27年）では47,464人となっており、10,000人以上減少している。

世帯数については、一貫して増加傾向にあり、2010年（平成22年）に20,000世帯を超え、平成27年現在で20,146世帯となっている。

一方、世帯人員は一貫して減少しており、1980年時点で3.36人であったのに対し、2017年では2.28人と、1人以上の減少となっている。

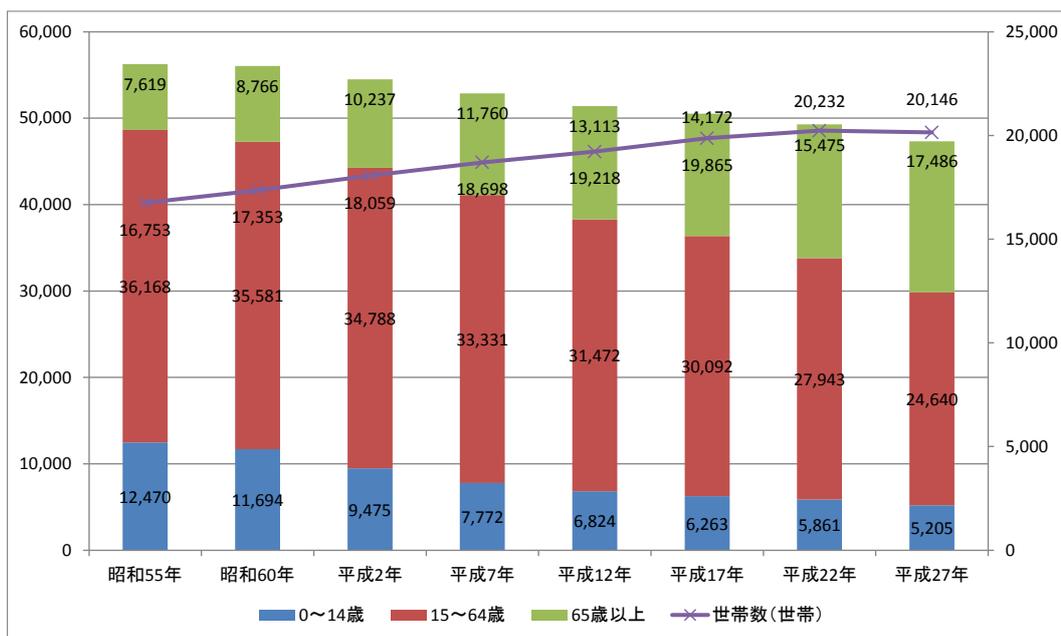


図 人口・世帯数の推移（資料：国勢調査）

②地区別人口

地区別の、平成26年度から平成30年度の住民基本台帳人口の推移を見ると、平成28年度からは全ての大字で減少している。

特に減少が著しいのは「富崎地区」で、平成26年から平成30年で126人(-13.5%)の減少となっているほか、最も減数が多いのは中心市街地である「館山地区」で、平成26年から574人(-4.8%)の減少となっている。

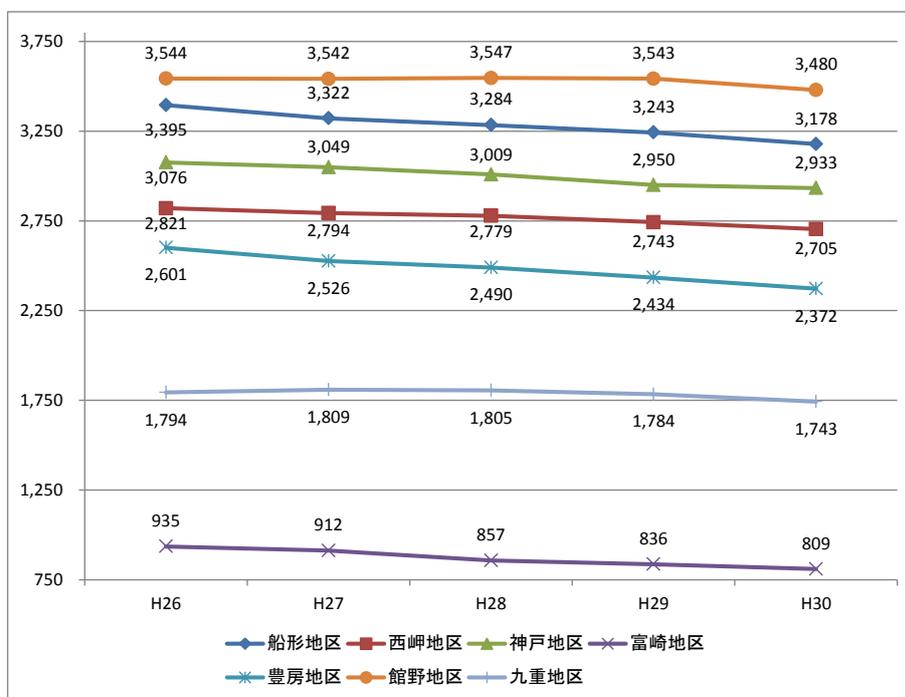
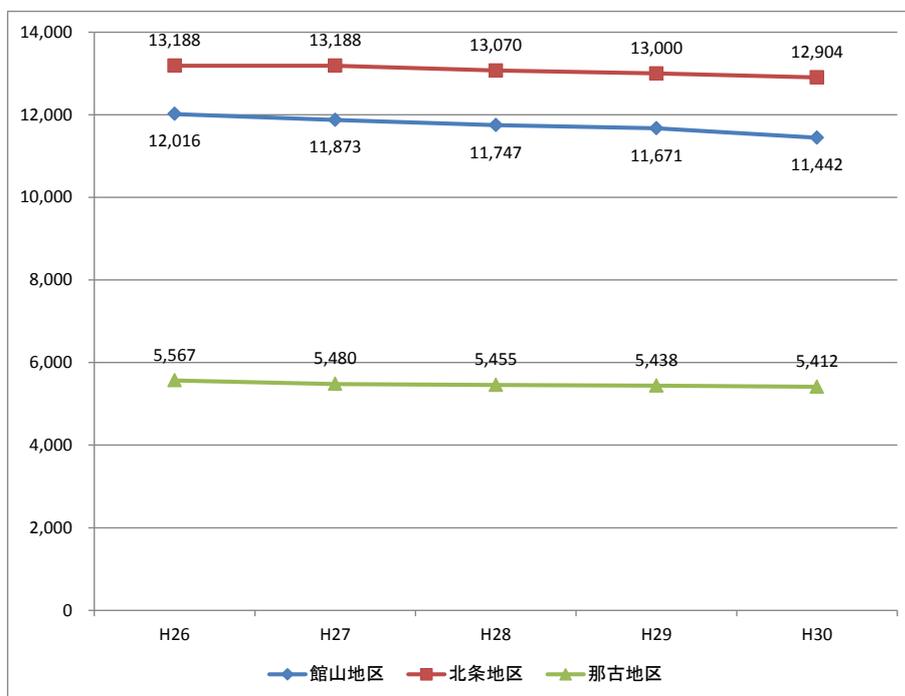


図 地区別人口の推移（資料：住民基本台帳）

③移住人口・世帯数の推移

館山市では、NPO 法人と連携し、若者世代の人口流出を食い止め、移住・定住を促進する取組に力を入れている。

その結果、移住人口の推移を見ると、年度により差はあるものの、60 人以上、20 世帯以上の転入があり、30 歳代～40 歳代の働き盛り世代や子育て世帯の転入も増えてきている。

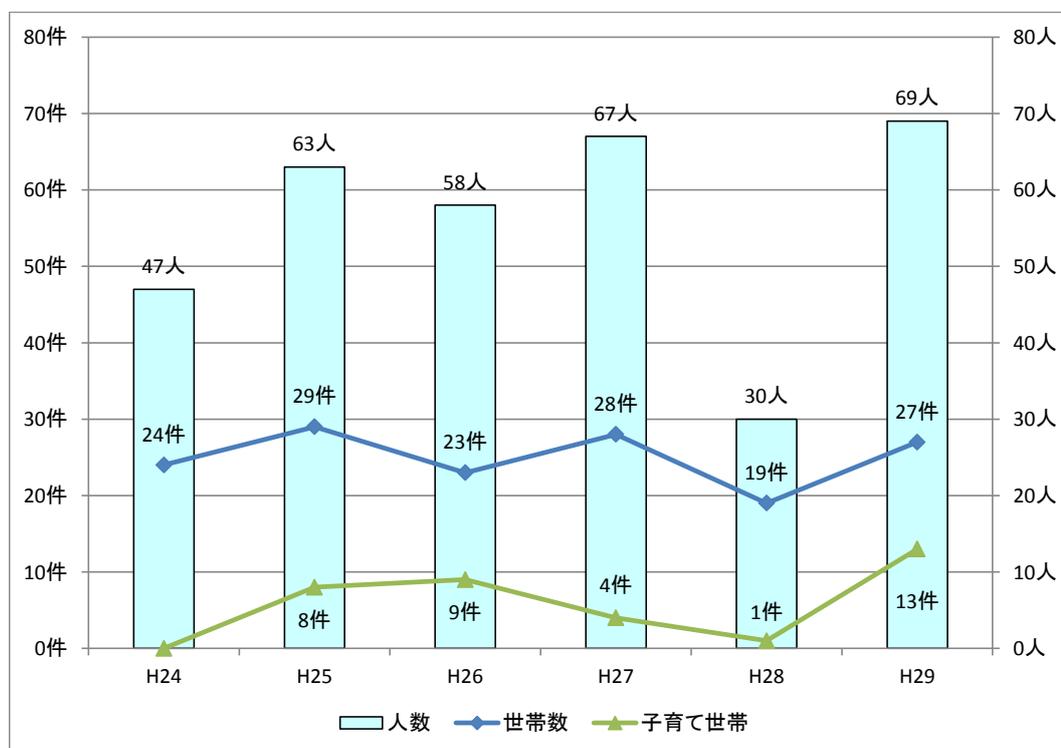


図 移住人口・世帯数の推移（資料：館山市資料）

(4) - 2 将来人口予測

「館山市都市計画マスタープラン（平成 21 年）」の「将来フレームの設定」では、平成 37 年の将来人口推計値を 46,100 人としている。

一方、「館山市人口ビジョン（平成 27 年）」では、2060 年（平成 72 年）の人口は 25,694 人まで減少すると予測され、2025 年（平成 37 年）は 43,270 人（将来展望人口）と予測されている。

「館山市人口ビジョン」では、「目指すべき将来の方向」として、若い世代の移住・定住や子育てしやすい環境づくり、安全・安心で生活しやすい「まち」づくりなどの方策を進めることで、人口減少抑制効果が見込まれるとしている。

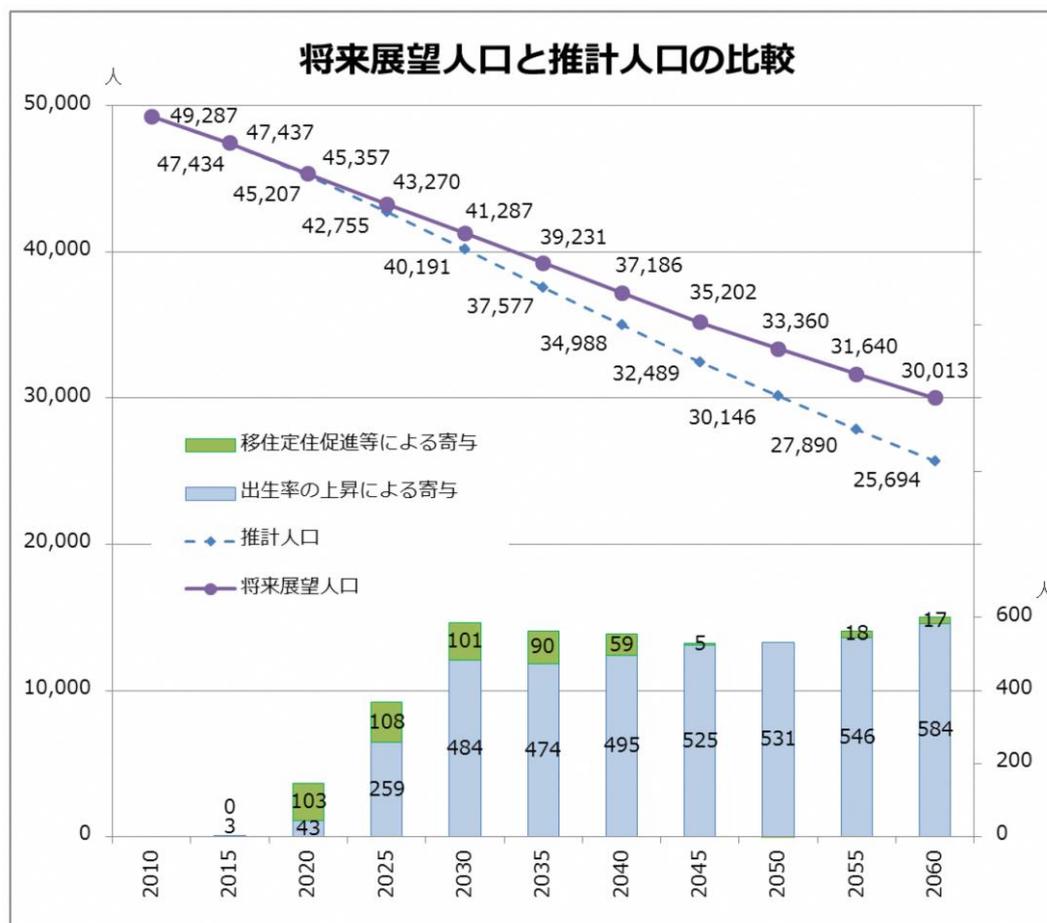


図 将来展望人口と推計人口の比較（出典：館山市人口ビジョン）

(4) - 3 人口分布状況

①人口分布状況

本市の人口分布状況を見ると、中心市街地である館山・北条地区への分布が多く、他は、鉄道駅付近に多少の集積が見られる。

また、主要な道路の（バス路線）沿線にも分布が見られる。

市全体で見ると、平坦な土地に集落が、館山駅周辺に市街地が形成されたが、国道 127 号館山バイパスや国道 410 号北条バイパスの開通に伴い、沿道（郊外）への大型商業施設等の立地が進み、館山駅前を中心とする中心市街地の衰退が目立つようになっている。

人口分布状況に公共交通利用圏を重ねると、中心市街地である北条地区・館山地区で利用圏域外への集積が目立つほか、那古・豊房・神戸・館野・九重地区では、圏域から外れた集積が多く見られる。

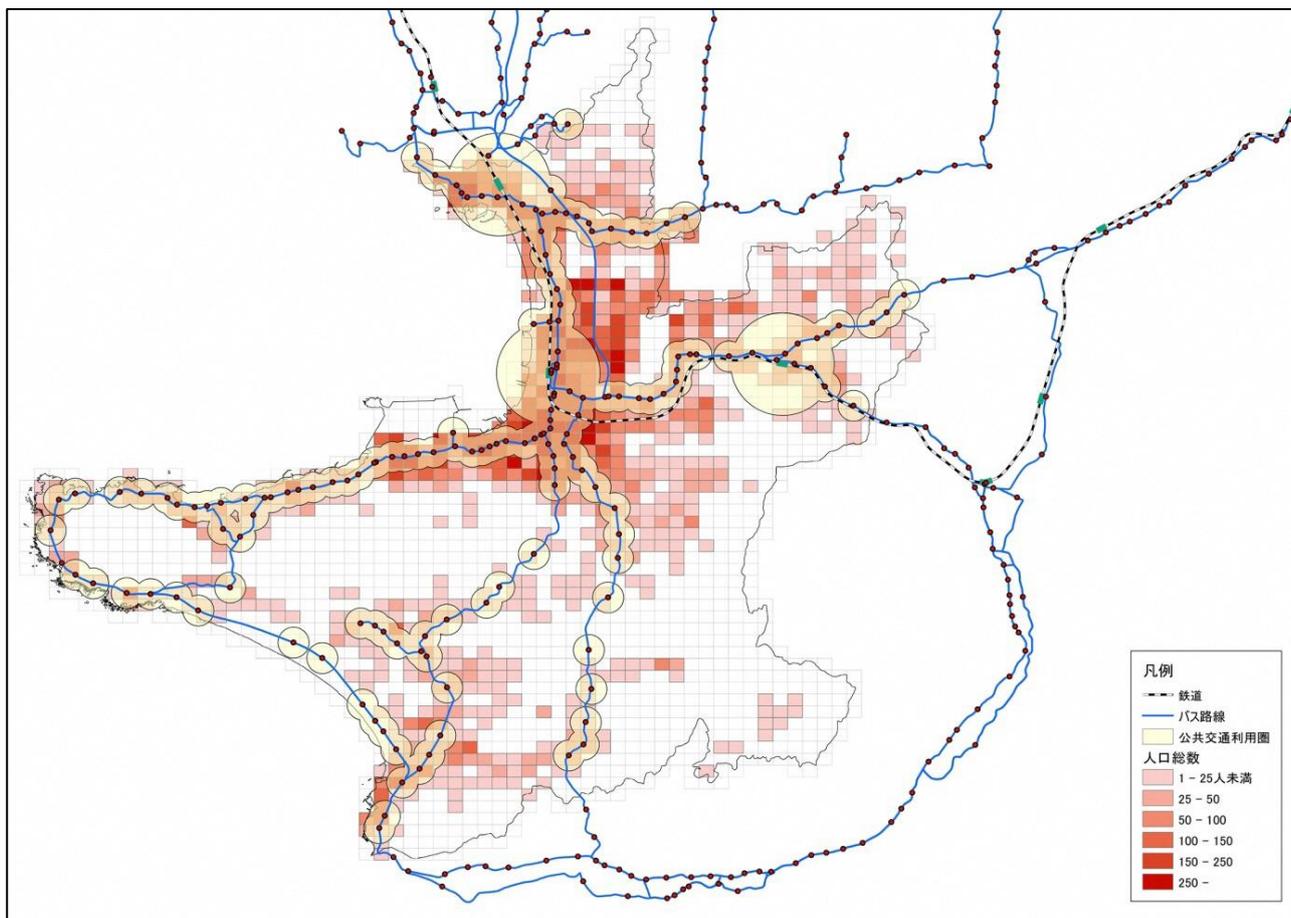


図 人口分布状況

②人口密度 (DID 地区)

市内の人口密度も減少傾向は続き、1995年(平成7年)からの20年で約10%減少しており、DID地区内人口は、過去20年間で約30%減少している。

また、1985年(昭和60年)から2015年(平成27年)で館山駅を中心とした地区のDID面積は拡大し、那古船形駅を中心とした地区はDID地区ではなくなっている。

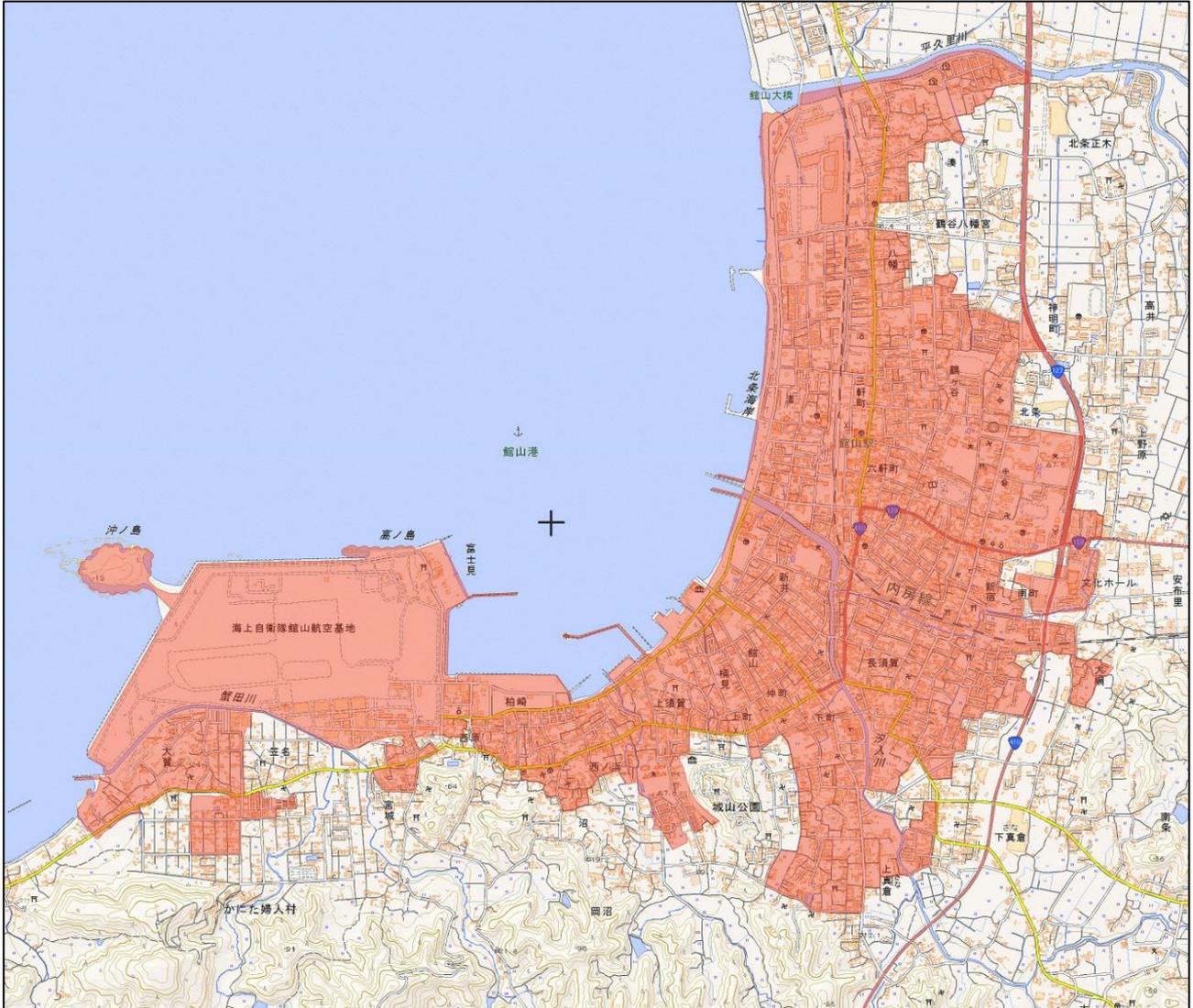


図 DID地区 (資料: 国土地理院 HP)

(4) - 4 少子化・高齢化の状況

本市の高齢化率は、千葉県や国と比較してもその割合は高く、2015年（平成27年）時点で36.9%と、3人に1人以上が高齢者となっている。

高齢者の分布は、人口分布状況と比例しており、北条地区、館山地区などの中心部で人口が多くなっている。

地区別の高齢化率を見ると、富崎地区が60.0%と最も高く、次いで西岬地区52.8%となっている。

高齢化率が最も低い地区は北条地区（33.7%）でも、30%を越えている。

高齢者人口の状況に公共交通利用圏域を重ねてみると、北条地区・館山地区で利用圏から外れた集積が多く見られるほか、の那古・神戸・館野・九重地区で、圏域から外れた集積が見られる。

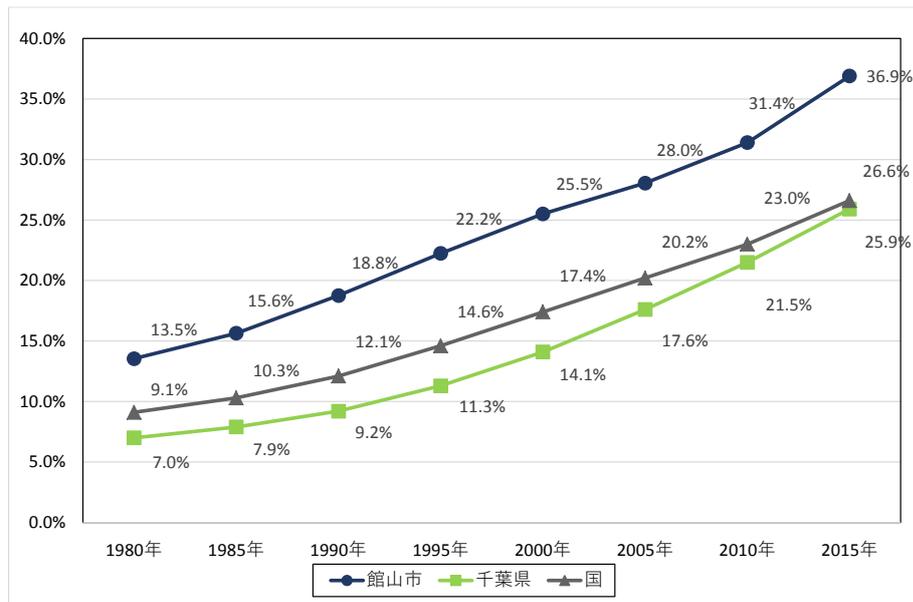


図 高齢化率の推移 (資料: 国勢調査)

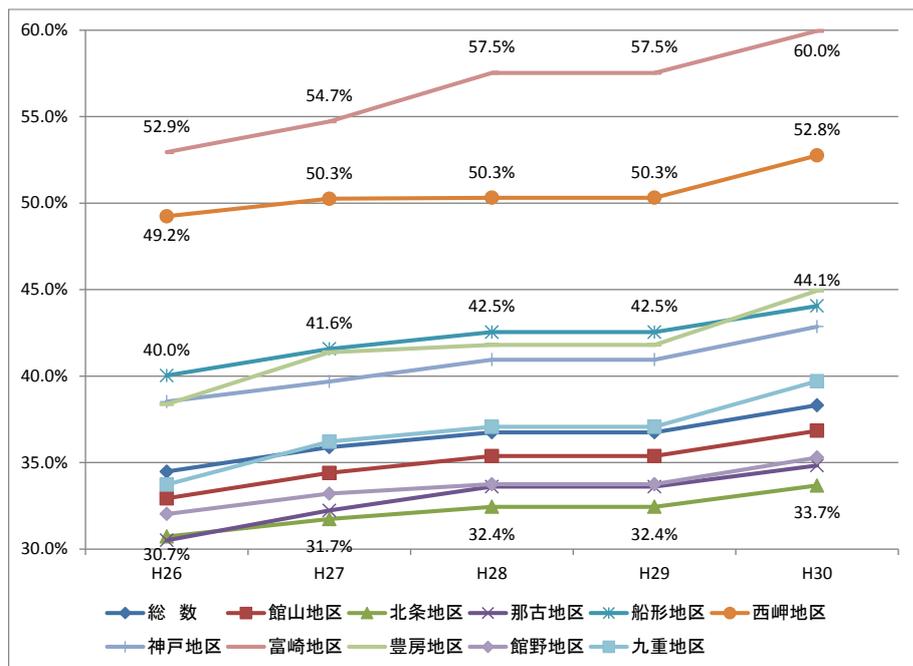


図 大字別高齢化率の推移 (資料: 館山市統計書)

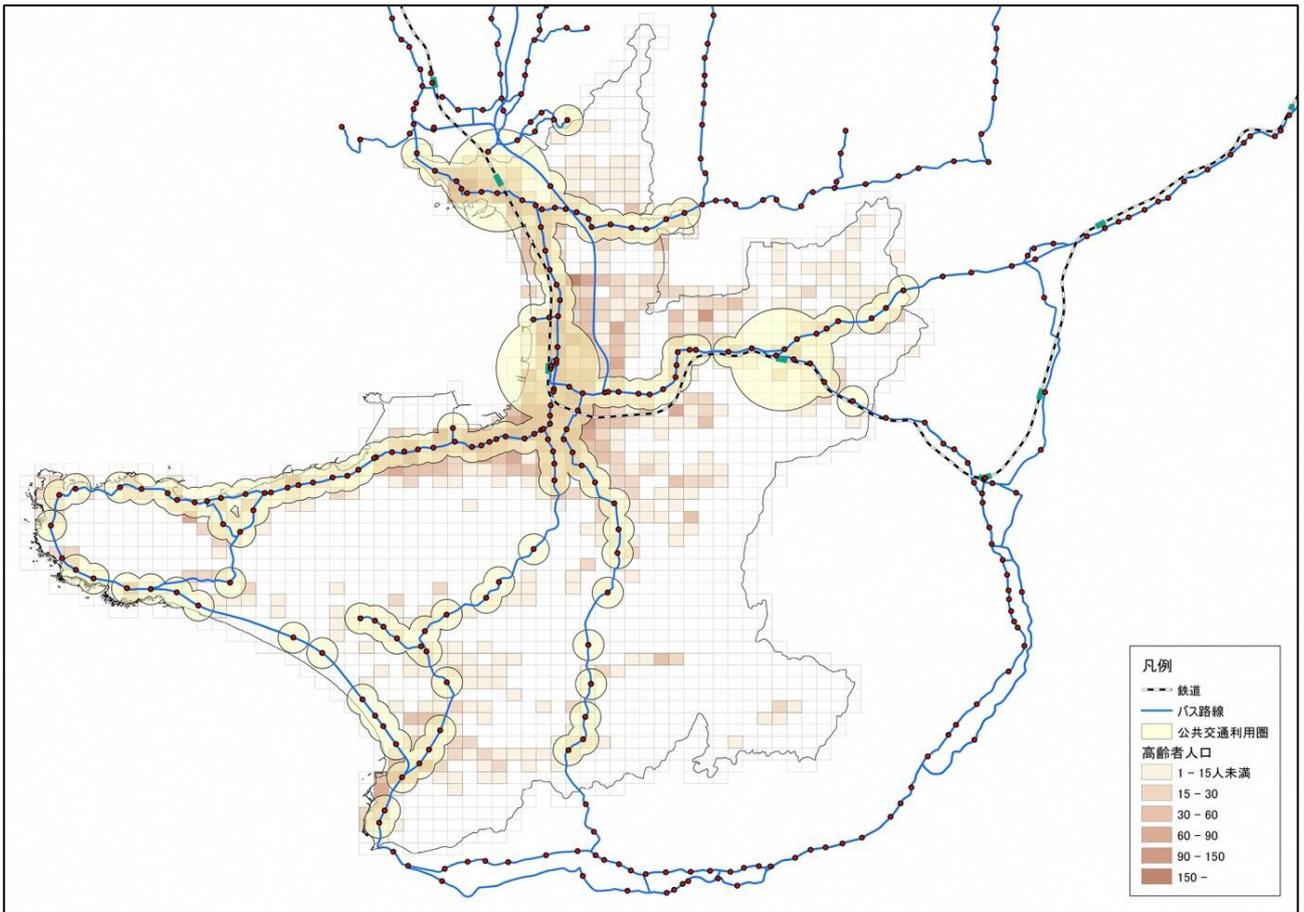


図 高齢者人口の状況

(5) 都市計画

(5) - 1 都市計画区域

本市は、全域が区域区分を定めない都市計画区域に指定されている。

区域区分（市街化区域と市街化調整区域）については、急激かつ無秩序な進行が見込まれないとの判断から定められていない。

都市計画区域内の一部については、用途地域（住居系：643ha、商業系：56ha、工業系：60ha）が指定されている。

表 用途地域指定状況

用途地域	面積 (ha)
第1種中高層住居専用地域	140
第1種住居地域	477
第2種住居地域	26
近隣商業地域	18
商業地域	38
準工業地域	55
工業地域	5
計	759

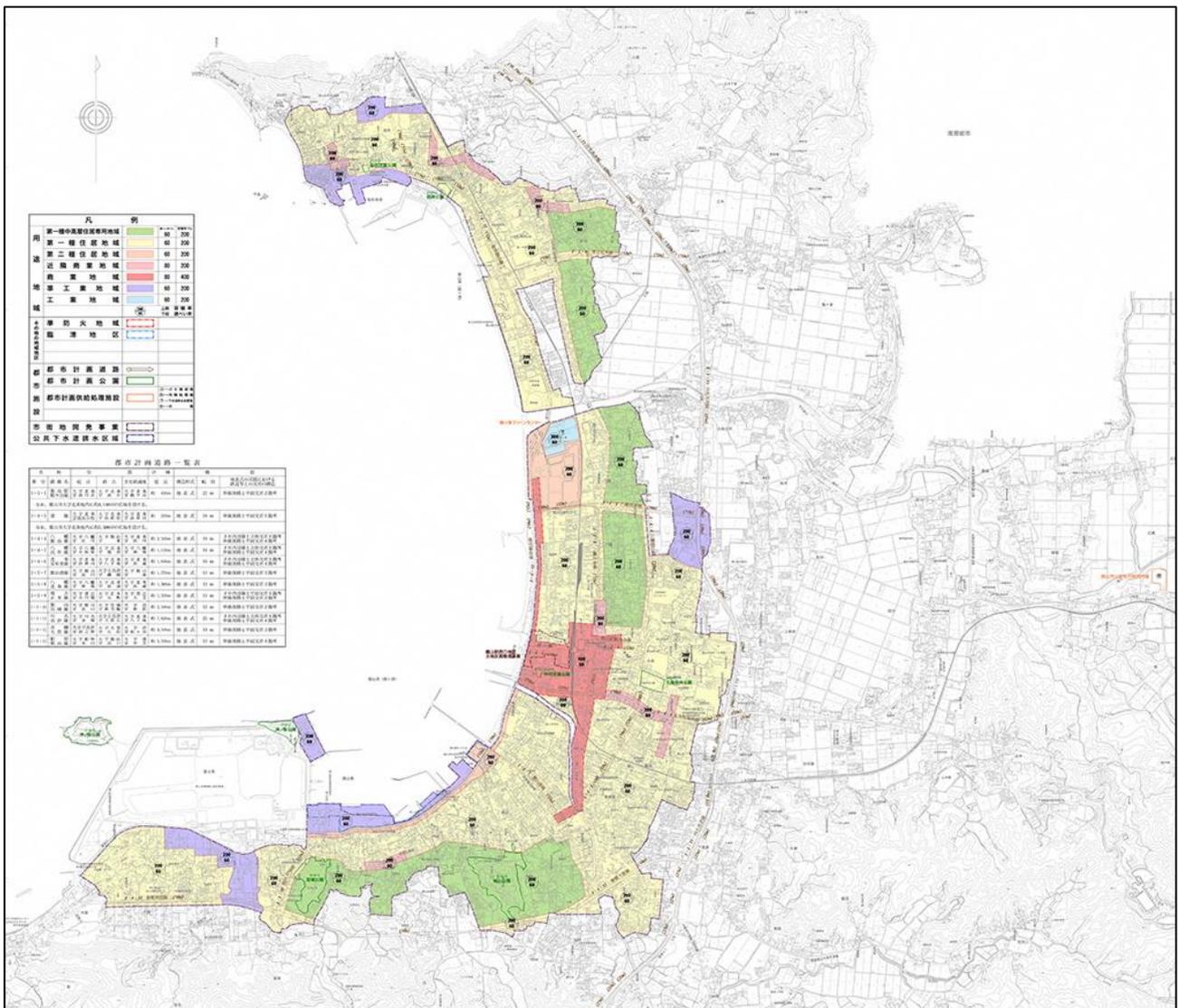


図 館山都市計画図

(5) - 2 その他土地利用規制等

用途地域が定められている区域、ゴルフ場、防衛施設などを除く市域の大半を農振農用地域が占めており、海岸部は南房総国立公園に指定されている。

また、『海洋性リゾートタウン』のまちづくりを進めるため、館山市街並み景観形成指導要綱により、別荘地等の開発、建築物等の新增改築又は外観の補修、屋外広告物の表示又は設置に関する指導地区を定めている。

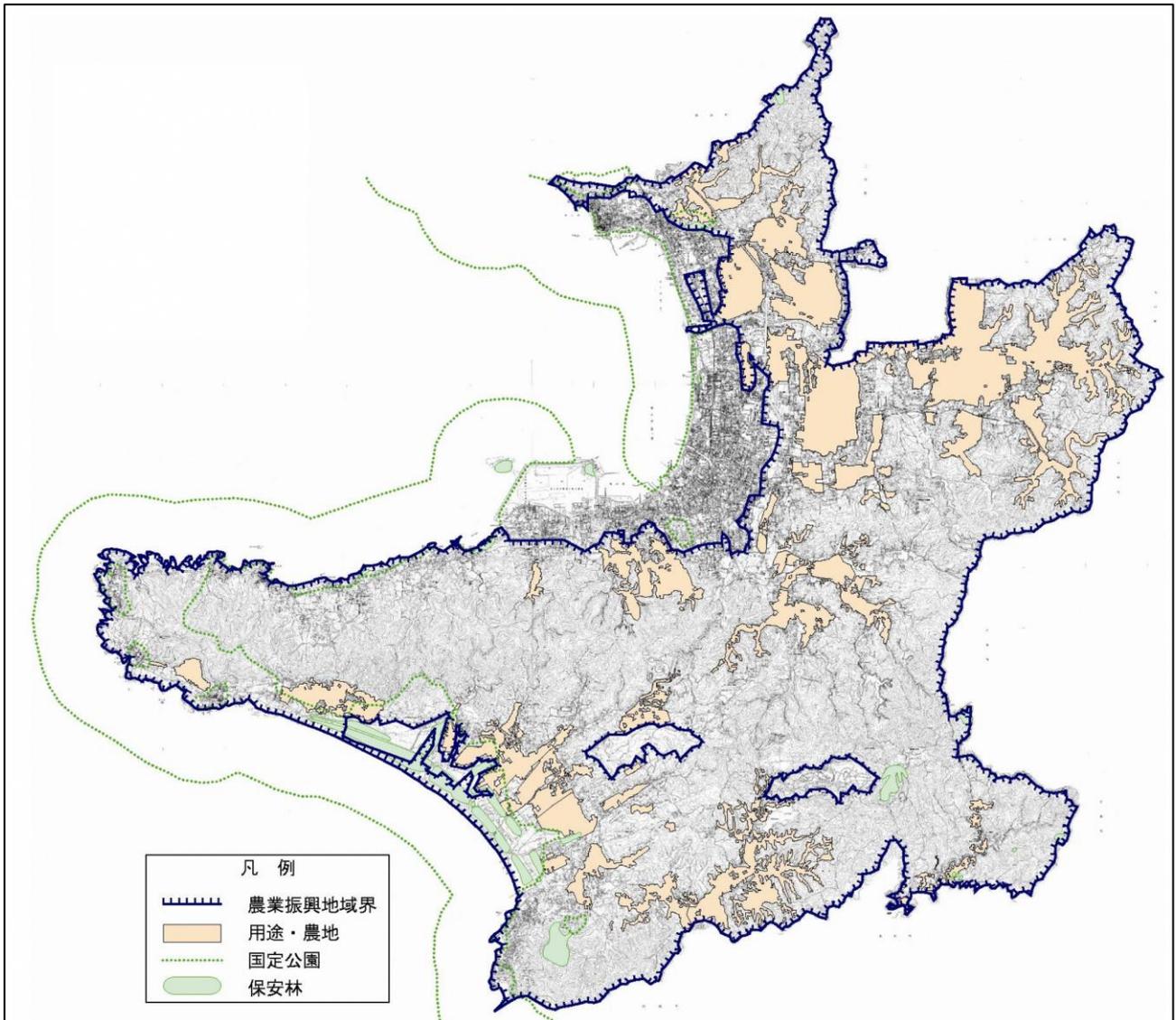


図 土地利用規制図

(6) 交通特性

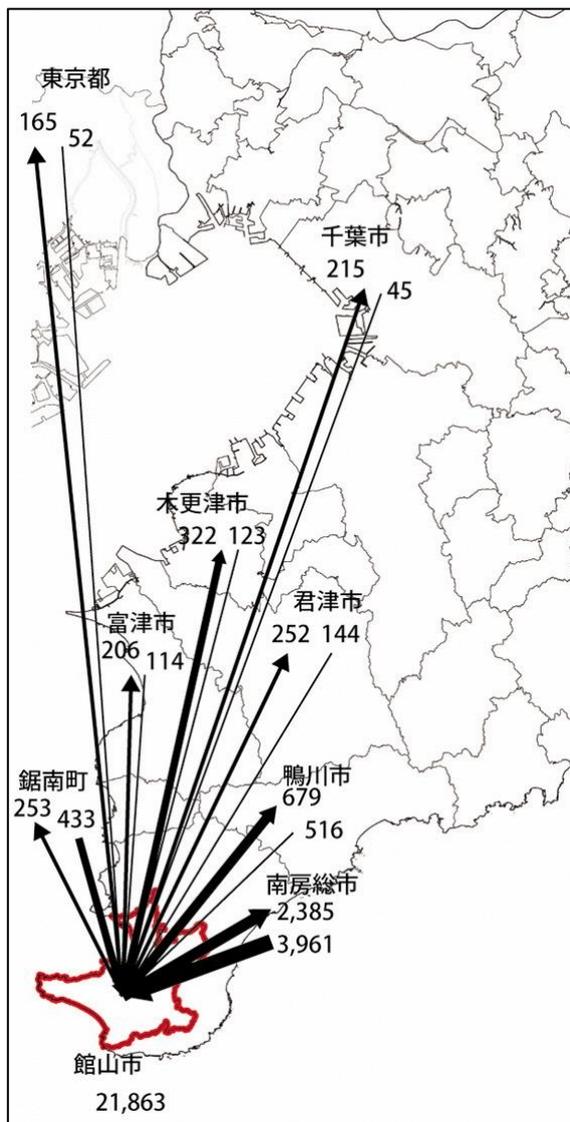
(6) - 1 交通流動

平成 27 年国勢調査を基に、通勤・通学流動を整理すると、下図の通りである。

流入・流出ともに南房総市が最も多く、次いで鴨川市となっている。この他、流出では、木更津市が多く、流入では鋸南町が多くなっている。

特に、南房総市との結びつきが強く、流出 2,468 人、流入 4,415 人となっている。

■通勤



■通学

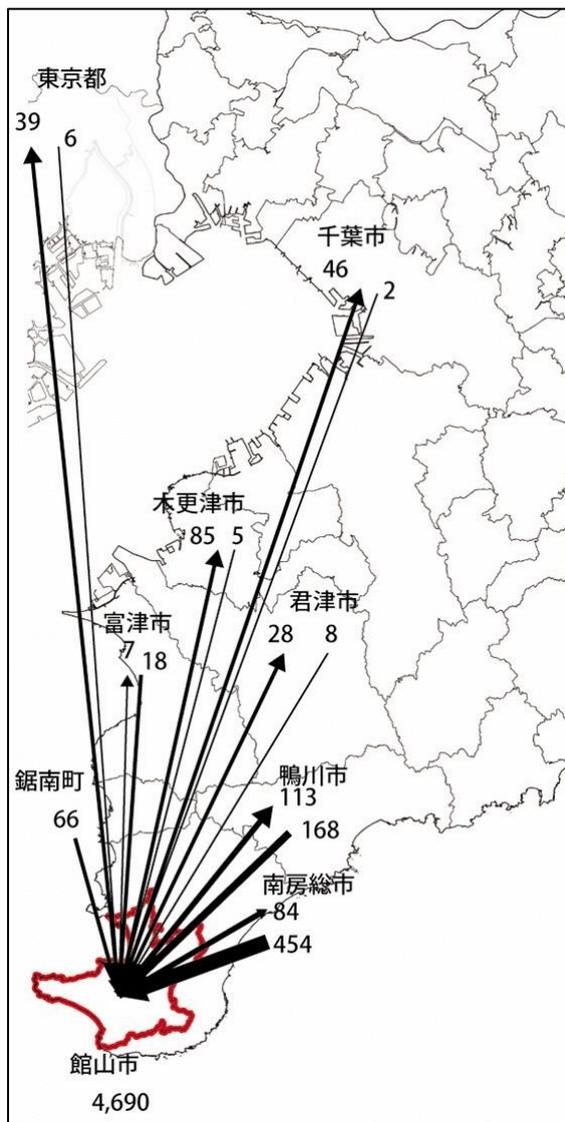


図 流出・流入状況図 (資料: 平成 27 年度国勢調査)

(6) - 2 交通機関分担率

利用交通手段を千葉県及び隣接する市町と比較すると、「自家用車」が最も多く、館山市では68.5%に上っている。(千葉県：31.1%)

館山市のその他の利用交通手段で、他市に比べて比較的利用が多いのは「自転車」となっており、12.1%を占めている。(千葉県：14.1%) また、「徒歩だけ」、「オートバイ」の利用も多く、それぞれ7.4%、2.9%となっている。(千葉県：徒歩だけ4.5%・オートバイ2.5%)

逆に、「鉄道・電車」、「乗合バス」の利用は低く、それぞれ2.0%、4.8%となっている。(千葉県：鉄道37.0%・乗合バス2.0%)

本市の場合、鉄道が市の中央部までで、他の地域の公共交通機関はバスのみとなっており、本数も多くないことから、自家用車への依存が高くなっていると考えられる。

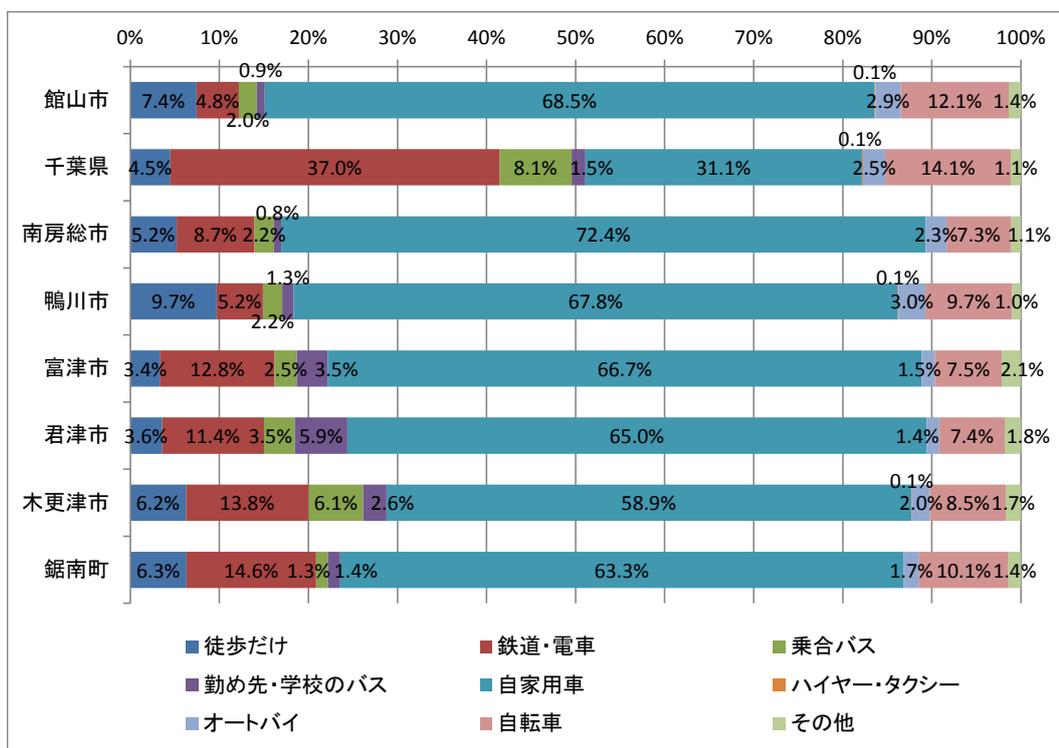


図 館山市及び千葉県、隣接市町の利用交通機関分担率 (資料：平成22年度国勢調査)

(6) - 3 道路網

本市の道路網は、国道 127 号、128 号及び 410 号と主要地方道 86 号（館山白浜線）、88 号（富津館山線）などにより、中心市街地から放射状の主軸が形成されている。また、西部から南部にかけては、県道 257 号（南安房公園線）が各地区の集落を連絡するとともに、海岸線に沿った周遊道路となっており、宿泊施設や観光施設が点在している。



図 道路の状況（資料：安房土木事務所管内図）

(6) - 4 自動車交通の状況

①自動車保有台数

本市の車種別所有自動車台数は、18,913台（2017年：平成29年）となっており、そのうち約81%が乗用自動車となっている。

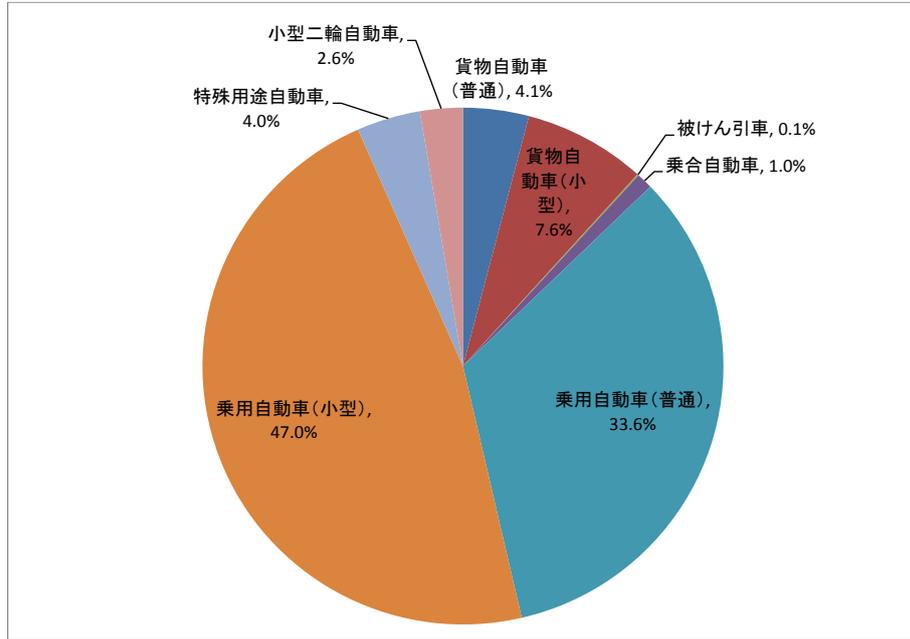


図 車種別所有自動車台数（資料：千葉県統計年鑑）

本市の車種別所有自動車台数の推移を見ると、軽自動車と普通車（乗用自動車）が減少傾向にあるが、小型車（乗用自動車）は一貫して増加傾向にある。

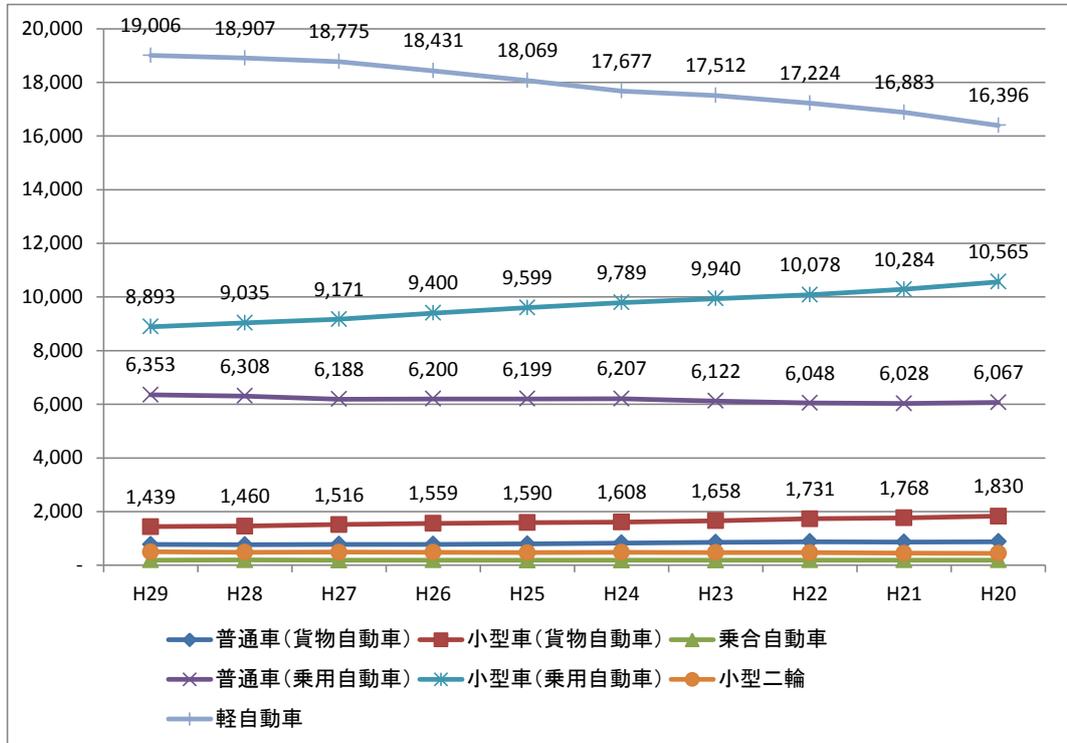


図 車種別所有自動車台数の推移

②運転免許返納者

本市の運転免許返納件数は増加傾向にあり、平成 27 年以降 200 人を超えている。

また、65 歳以上のうち、それぞれの年代に占める運転免許保有者の割合は、「65 歳～69 歳」では 83.6%、「70 歳～74 歳」では 70.1%に上っている。

こうした中、高齢で運転ができない人向けに、館山市やバス事業者による運転免許返納者への優遇措置などが実施されている。

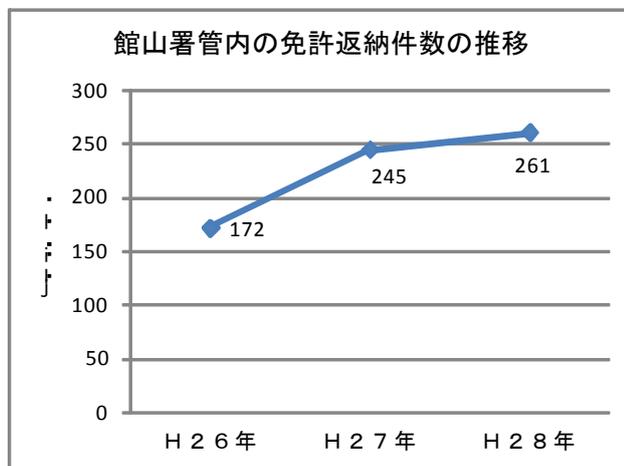


図 館山署管内の免許返納件数の推移

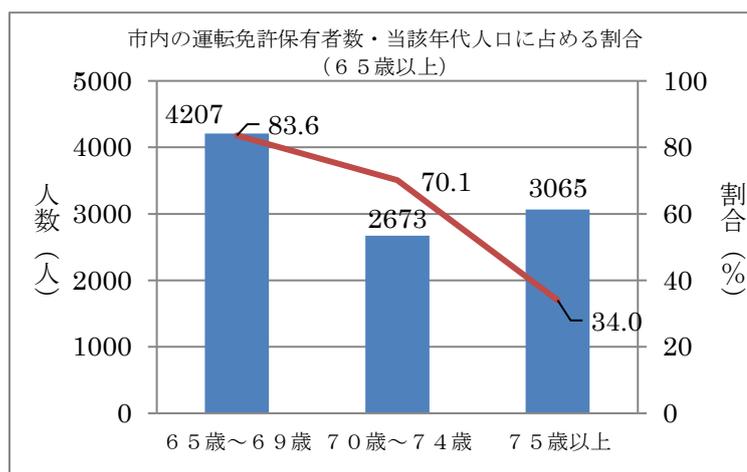


図 市内の運転免許保有者数・当該年代人口に占める割合（65歳以上）

■運転免許返納者への優遇措置

実施主体：日東交通グループ・ジェイアールバス関東(株)館山支店

路線バス乗車運賃を半額

平成 23 年 7 月から実施

『ノーカー・サポート優待証』の提示が必要

※他の事業者が実施しているサービス

- ・タクシー運行事業者（館山署管内の 8 タクシー会社）

65 歳以上の返納者・運賃の 1 割引・運転経歴証明書の提示

- ・館山市

75 歳以上の返納者

バス回数券・タクシー利用助成券・市内共通商品券

（いずれも 5,000 円相当・1 回限り）

(7) 施設分布状況

(7) - 1 公共・公益施設

館山市の公共・公益施設は、中心市街地である館山・北条地区に多く分布している。学校や子育て支援施設、地域コミュニティ施設などは、各地区に1箇所程度立地している以外はほとんど見られない。

館山警察署は、老朽化、狭隘化が著しいため、2021年度（平成33年度）を目途に庁舎移転の計画を進めている。

警察署移転予定地のイメージ



図 移転予定地イメージ（出典：千葉県ホームページ）

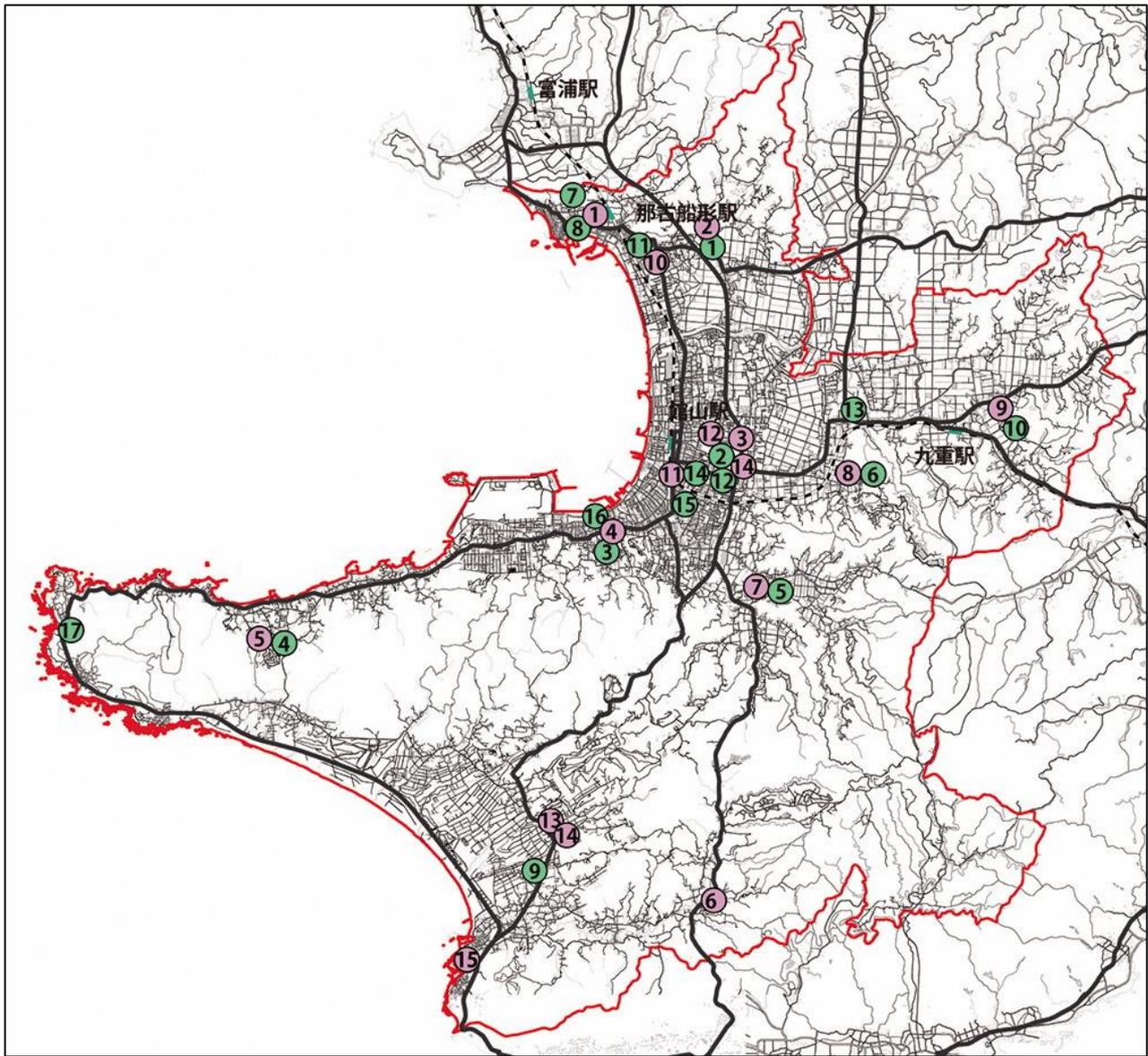


図 公共施設位置図（教育施設・子育て支援施設）（出典：館山市公共施設等総合管理計画）

表 教育施設・子育て支援施設

学校教育系施設		子育て支援施設	
小学校		幼稚園	
①	船形小学校	①	那古幼稚園
②	那古小学校	②	北条幼稚園
③	北条小学校	③	館山幼稚園
④	館山小学校	④	西岬幼稚園
⑤	西岬小学校	⑤	豊房幼稚園
⑥	神余小学校	⑥	館野幼稚園
⑦	豊房小学校	⑦	白百合幼稚園（私立）
⑧	館野小学校		こども園
⑨	九重小学校	⑧	船形こども園
	中学校	⑨	房南こども園
⑩	第一中学校	⑩	九重こども園
⑪	第二中学校		公立保育園
⑫	第三中学校	⑪	純真保育園
	小中一貫校	⑫	中央保育園
⑬	房南地区小中一貫校	⑬	館野保育園
	その他施設		私立保育園
⑭	学校給食センター	⑭	聖アンデレ保育園（北条）
⑮	（旧）神戸小学校	⑮	館山教会附属保育園（北条）
⑯	（旧）富崎小学校	⑯	館山ユネスコ保育園（館山）
		⑰	子育て保育園

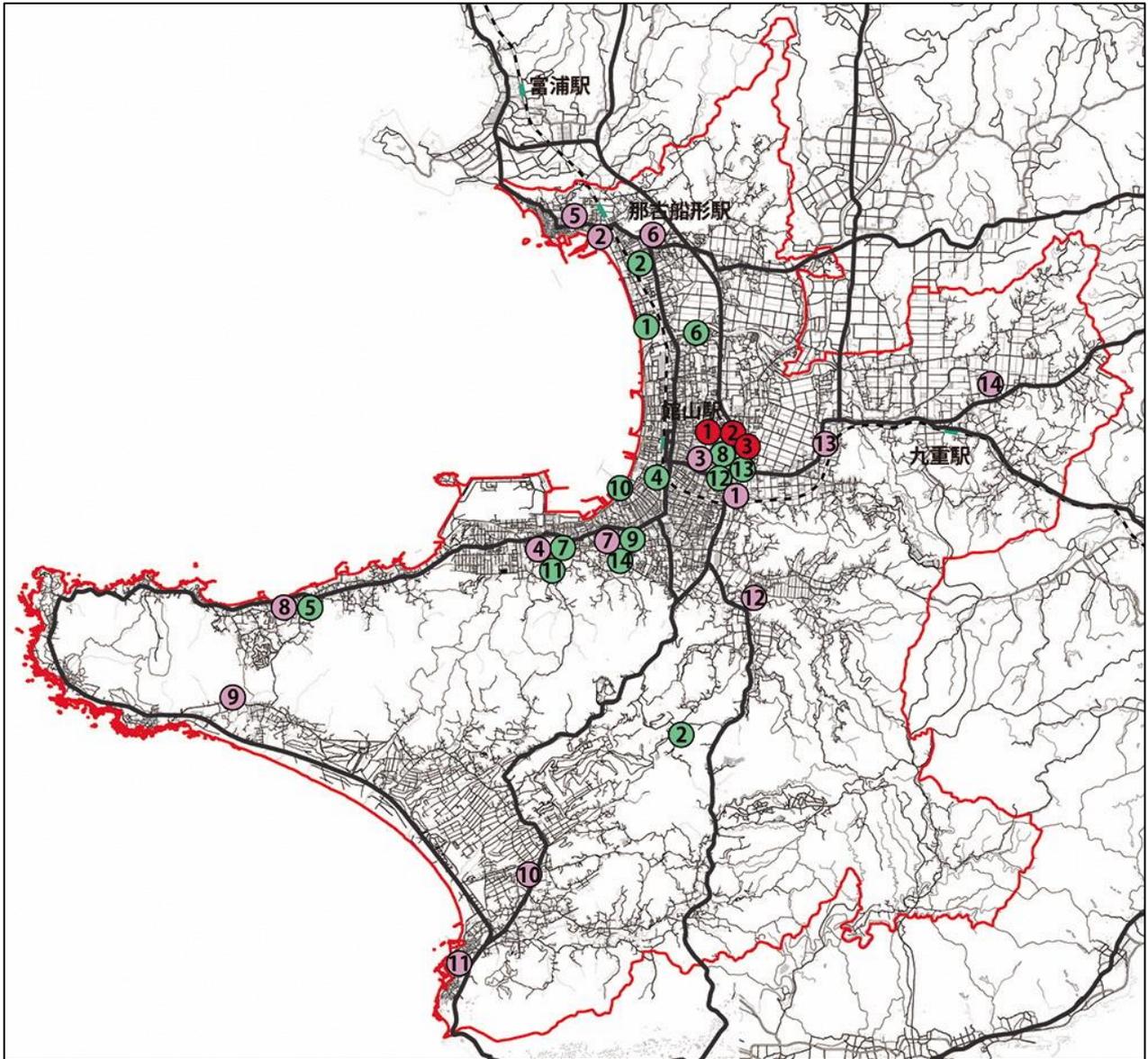


図 公共施設位置図（行政施設・スポーツ・文化・レクリエーション施設）（出典：館山市公共施設等総合管理計画）

表 行政施設・スポーツ・文化・レクリエーション施設

行政施設	地域コミュニティ施設	スポーツ・文化・レクリエーション施設
① 館山市役所	複合	スポーツ施設
② 館山警察署	① コミュニティセンター	① 市民運動場
③ 安房都市消防本部	学習施設	② 出野尾多目的広場
	② 若潮ホール	③ 第一柔剣道場（一中敷地内）
	③ 菜の花ホール	④ 市民体育館（二中敷地内）
	④ 豊津ホール	⑤ 西岬市民体育館
	地区公民館	⑥ 温水プール
	⑤ 船形地区公民館	⑦ 50mプール
	⑥ 那古地区公民館	⑧ 弓道場
	⑦ 館山地区公民館	文化・観光施設
	⑧ 西岬地区公民館	⑨ 博物館（本館・館山城）
	⑨ 西岬地区公民館分館	⑩ 渚の駅たてやま
	⑩ 神戸地区公民館	⑪ 赤山地下壕跡
	⑪ 豊崎地区公民館	⑫ 図書館
	⑫ 豊房地区公民館	⑬ 都市公園（北条中央公園）
	⑬ 館野地区公民館	⑭ 都市公園（城山公園）
	⑭ 九重地区公民館	
	福祉	
	⑮ 老人福祉センター（湊）	
	⑯ 老人福祉センター（出野尾）	

(7) - 2 大型商業施設

大型商業施設は、ほとんどが館山駅周辺に集中している他は、大神宮に2店舗立地しているのみとなっている。

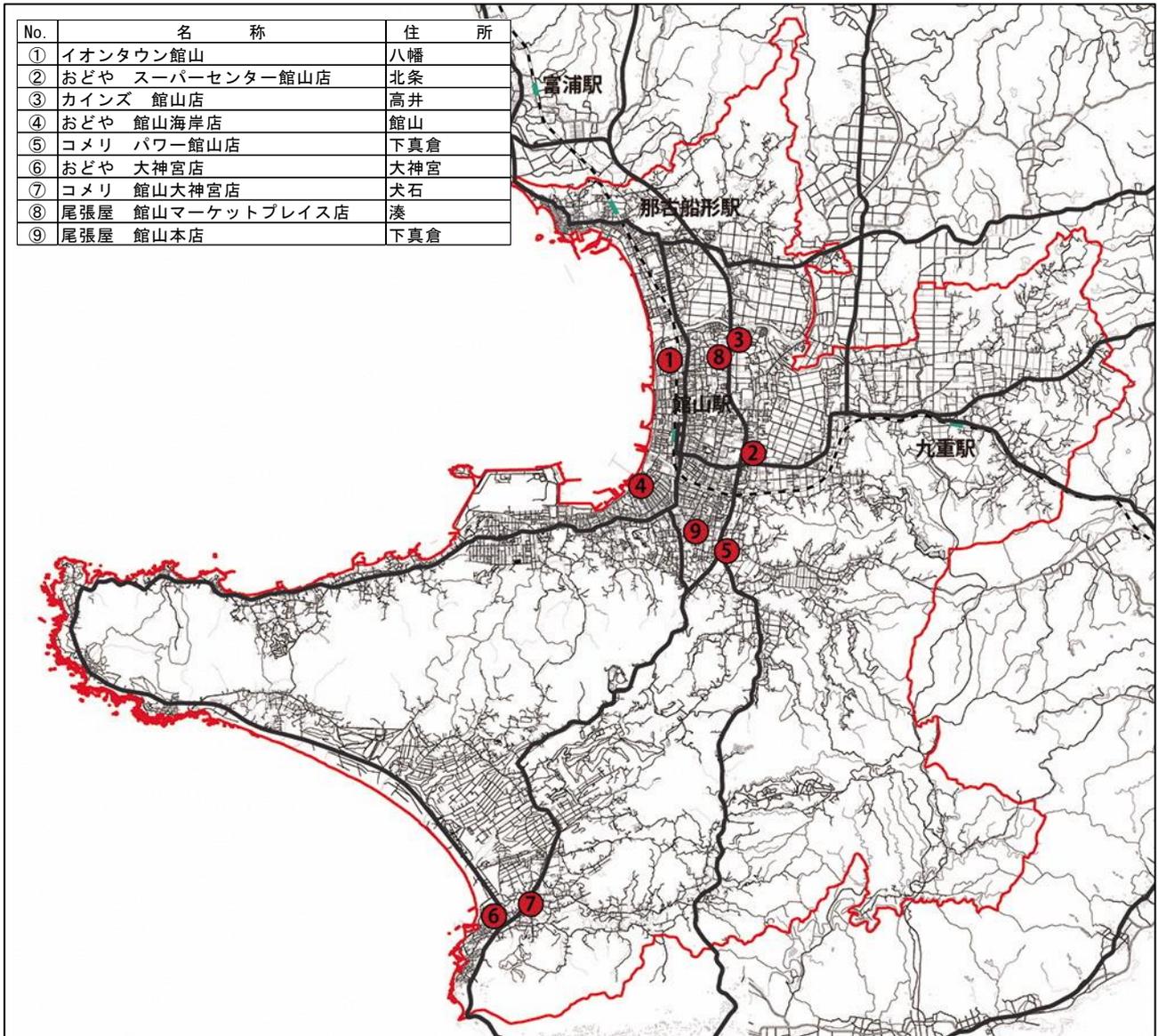


図 大型商業施設の分布状況

(7) - 3 医療施設

医療施設は、館山駅周辺（北条地区・館山地区・館野地区）に集中している。

②館山病院は昭和40年に建設され、老朽化が進んでいることから、2023年開院を目指し、館山バイパス沿いへ新築移転する計画が進んでいる。

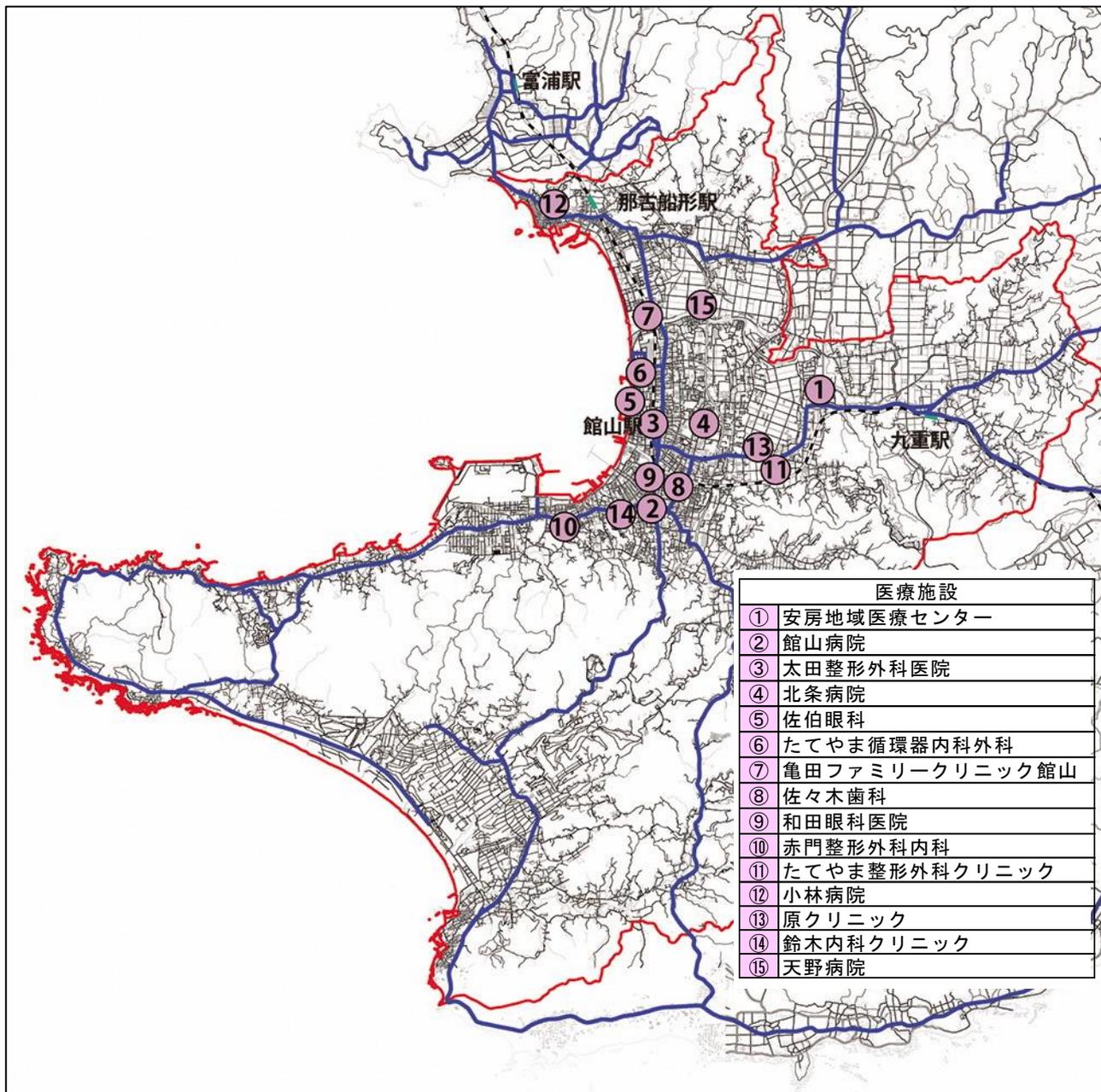


図 医療施設の分布状況（市民アンケート調査（良く行く外出先）上位15位の病院を記載）

(8) 公共交通の現状

(8) - 1 公共交通の運行状況

①公共交通の運行状況

市内の鉄道路線は、JR内房線が北部から東部にかけて走っており、市内には3駅（那古舟形駅・館山駅・九重駅）が所在している。

バス路線は、市域北部及び東部において館山日東バス、市域西部及び南部においてJRバス関東が運行され、東京湾アクアラインや館山自動車道の開通により、東京駅・バスタ新宿や羽田空港・横浜、千葉市内などを結ぶ高速バスが運行されている。

この他、館山夕日栈橋では、毎年2月、3月に東京と伊豆大島を結ぶ高速ジェット船が寄港するほか、花火大会等のイベントに合わせたにっぽん丸などの停泊、おがさわら丸の寄港など、海上交通やクルーズ船の誘致に力を入れ、観光振興に取り組んでいる。

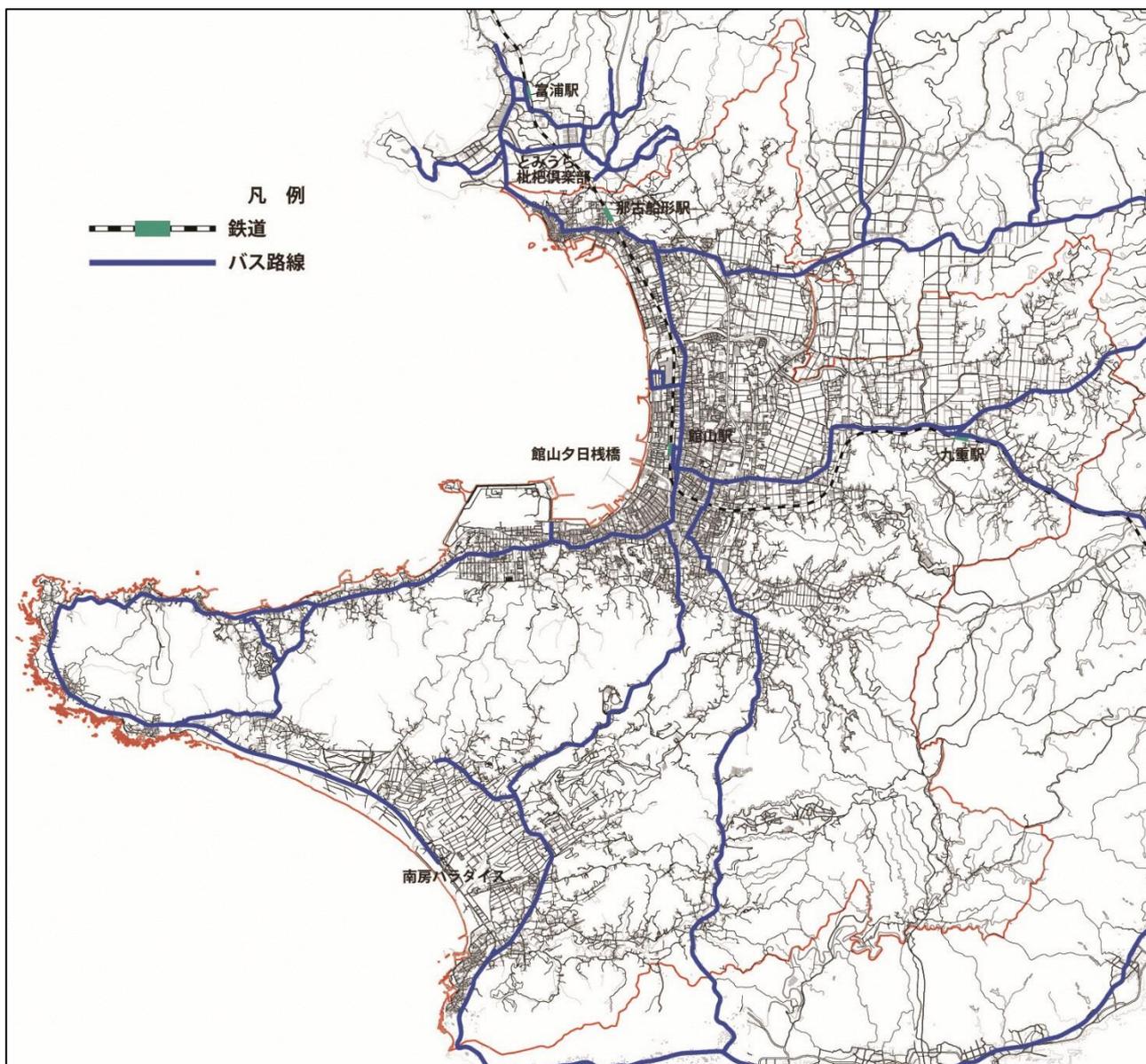


図 館山市の公共交通（資料：館山市）

②バス・タクシー台数の推移

市内のバス・タクシー台数の推移は、2008年（平成20年）から見ると、いずれも減少しており、定期バスは8台、タクシーは9台減少しているが、近年では横ばいとなっている。

観光バスは、2016年（平成28年）からは減少しているものの、ほぼ横ばいとなっている。

タクシーは、現在3社が運行している。2018年（平成30年）5月に、市内の1事業者が経営難等を理由に廃業した。

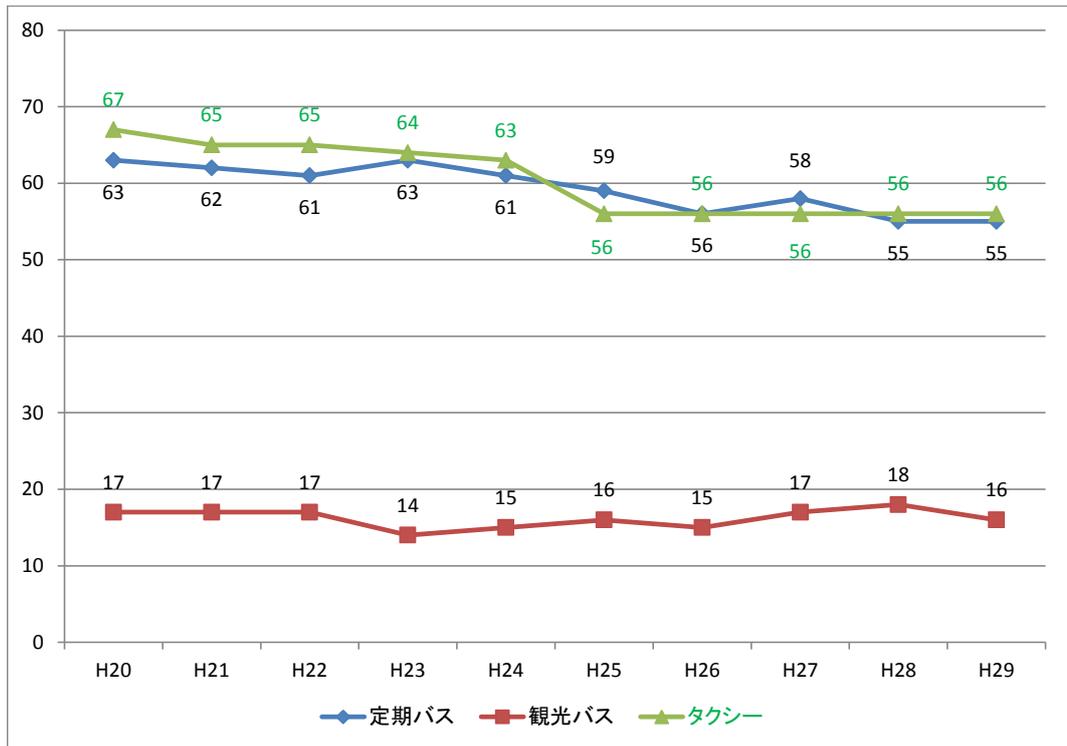


図 バス・タクシー台数の推移（資料：館山市統計書）

表 タクシー事業者

事業者名	所有台数	所在地
鏡浦タクシー（株）	13	館山市北条 1882
南房タクシー（株）	13	館山市北条 2199-4
(有)晝夜タクシー	6	館山市船形 319-12

(8) - 2 公共交通の利用状況

①路線バス

市内の路線バス事業者は、館山日東バス及びJRバス関東の2社となっており、系統は、日東バス6路線、JRバス関東2路線となっている。

JRバス関東の南房州線（館山駅～安房神戸～安房白浜）は、2往復が高速バスとして運行されている。

最も本数が多いのは「館山航空隊～なむや」で平日17本、休日11本、次いでJRバス関東「館山駅～南房パラダイス」平日15本、休日14本、JRバス関東「館山駅～安房白浜」平日14本、休日12本となっているほかは、一日4～6本程度となっている。

市内を走る路線バスは、年々利用者が減少しており、館山市の補助金額も年々増大している。今後は、ニーズをしっかりと把握し、路線網を見直していく必要がある。

最近の動きとしては、2017年（平成29年）12月1日（金）から、JRバス関東が洲の崎線において、買物が不便な地域住民の声を受け、「おどや館山海岸店」及び「渚の駅たてやま」に停車する「ショッピングライナー」（2往復）を新設した。

■ JRバス

運行区間		本数
南房州本線	館山駅～安房神戸～安房白浜	平日：14 土曜・休日：12
洲の崎線	館山駅～南房パラダイス	平日：15 土曜・休日：14

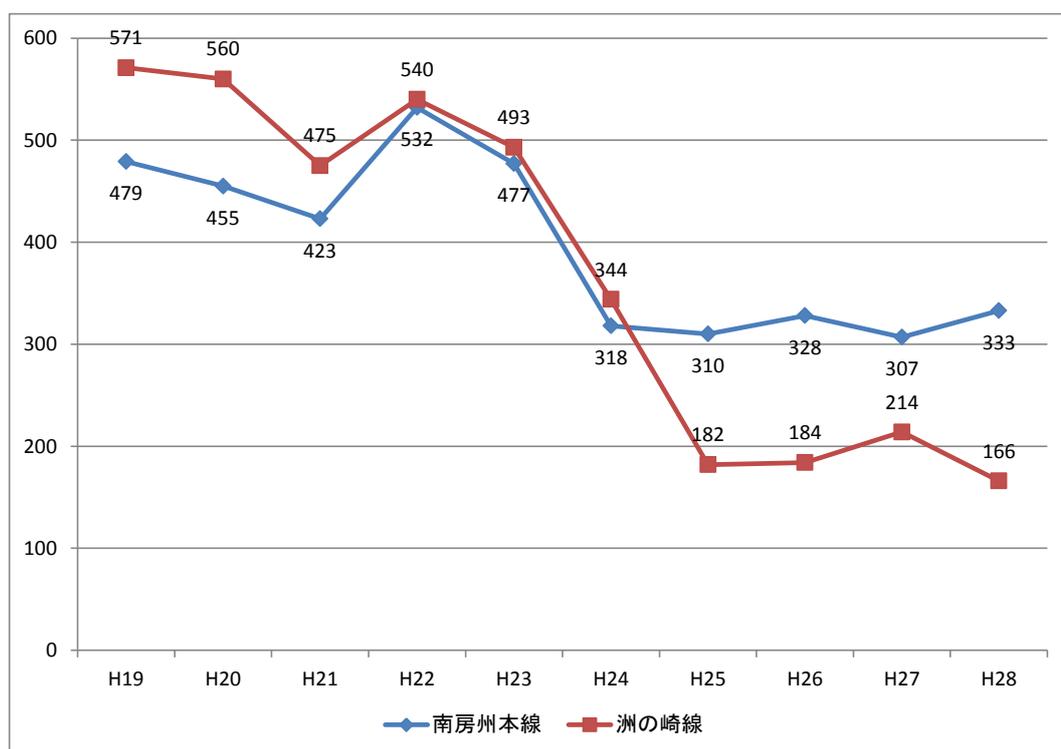


図 JRバス運行状況 (資料：館山市統計書)

■ 館山日東バス

運行区間		本数
市内線	館山航空隊～なむや	平日：17 土曜・休日：11
館山鴨川線	館山駅～亀田病院	平日：5 休日：4
千倉線	館山駅～平館車庫	平日・休日：5
豊房線	館山駅～安房白浜	平日・休日：4（白浜行き）平日・休日：5（館山行き）
丸線	館山駅～川谷・細田	平日：6 土曜・休日：4
平群線	館山駅～平群車庫	平日・休日：4

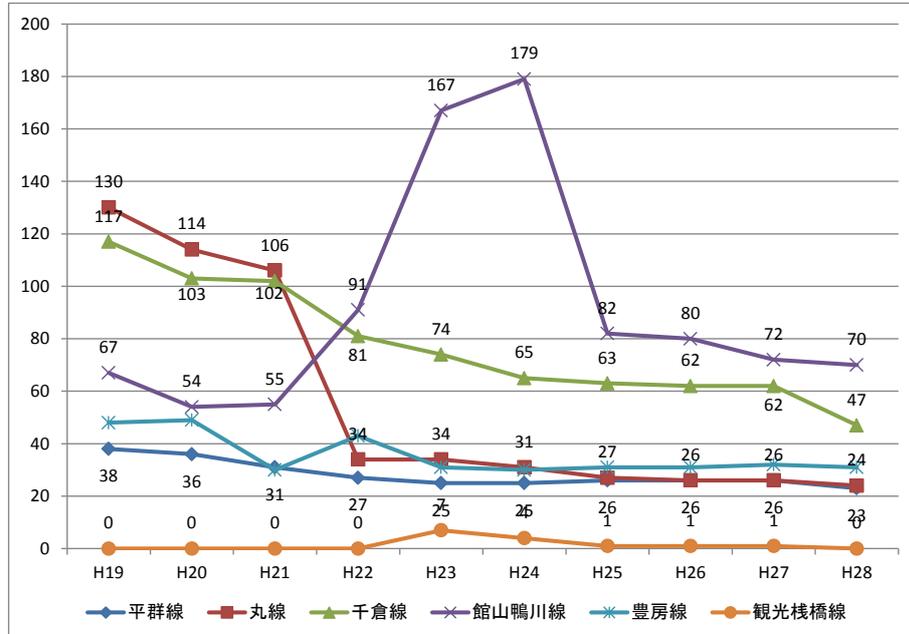
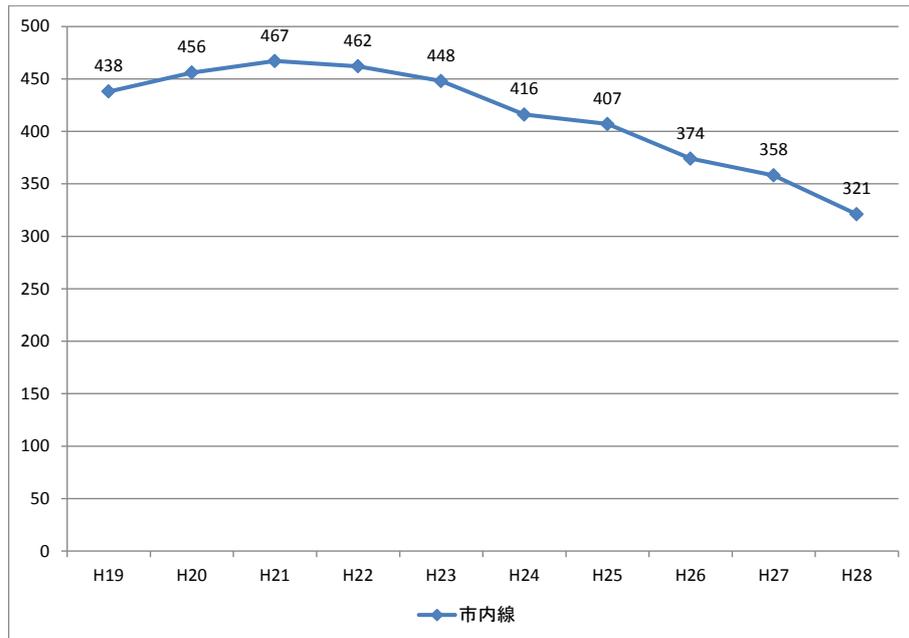


図 館山日東バス運行状況（資料：館山市統計書）

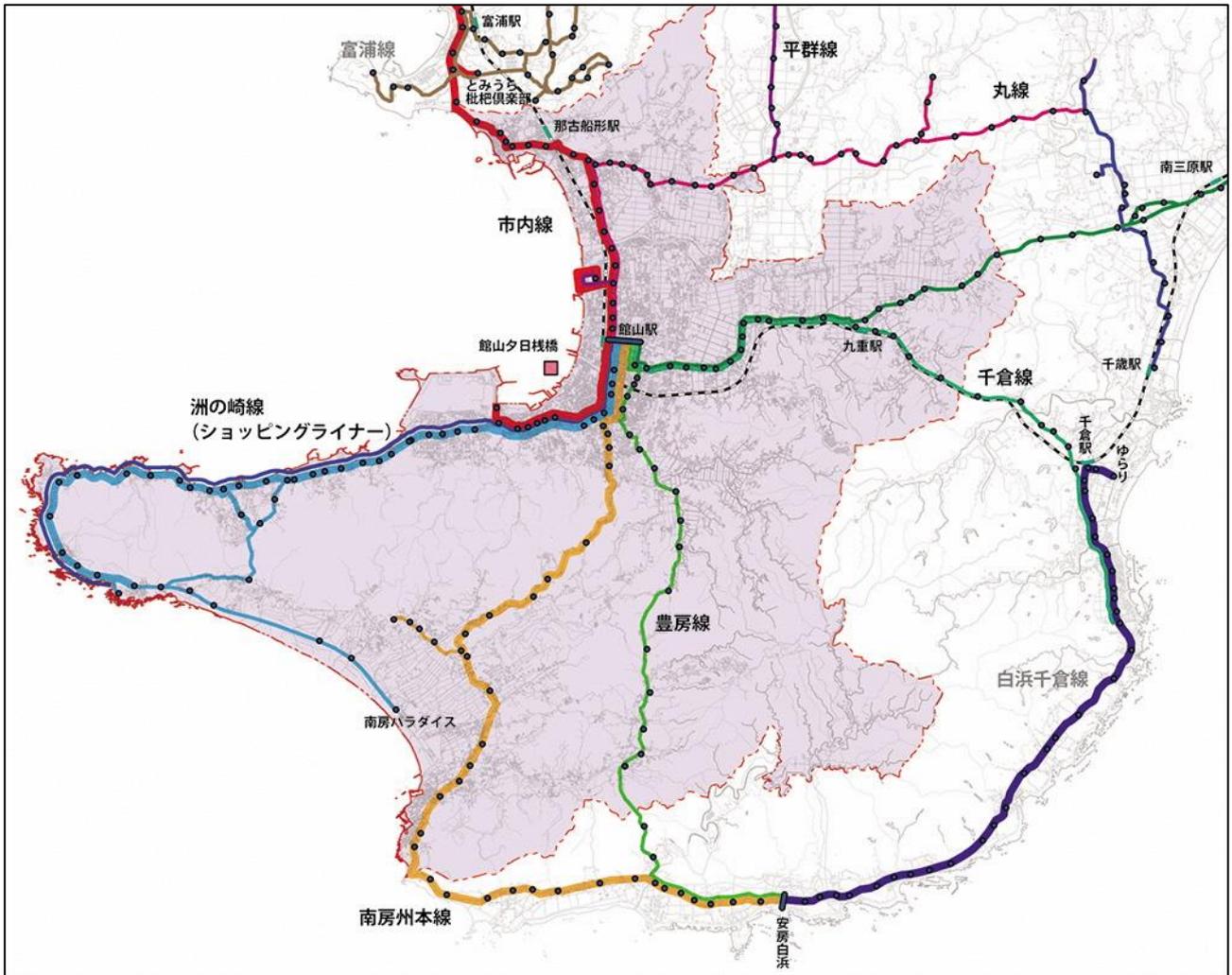


図 バス路線図（資料：各バス事業者路線図等）

館山市及び南房総市の2市により、館山日東バスが運行する3路線に補助金を拠出し、運行を維持している。

表 路線バス運行補助金

路線名	補助金額（単位：千円）※前年度運行実績による		
	平成30年度	平成29年度	平成28年度
丸・平群線（館山駅～那古～三芳～平群車庫/川谷・細田）	10,493	8,922	8,180
豊房線（館山駅～豊房～神余～安房白浜）	4,244	3,989	4,066
千倉線（館山駅～九重駅～千倉・平館車庫）	3,066	3,120	1,509
館山市補助額合計	17,803	16,031	13,755

②高速バス

本市の高速バスは、JRバス関東・日東交通が共同で、館山駅・安房白浜駅を起終点とする東京駅ゆき（房総なのはな号）、新宿駅ゆき（新宿なのはな号）計38本／日を運行しており、一部の便は洲の崎線（館山駅～休暇村・伊戸漁港）及び南房州本線（館山駅～安房神戸～安房白浜）に直通し、館山駅より先の区間を一般路線バスとして運行している。

また、平成30年5月11日（金）から、毎週金曜日に限り、飲み会帰りの利用者や単身赴任者の利便性向上のため、館山地区及び西岬方面休暇村館山ゆきの「フライデーバス」の実証運行が行われている。このバスは、東京駅19時50発の高速バスからの直行便となっており、館山駅22時発、休暇村館山22時19分着となっている。

また、ちばシティバスと日東交通、館山日東バスが共同で運行する「南総里見号」（千葉駅・千葉みなと駅～館山駅・安房白浜駅：23本／日）を、京急バス・日東交通が共同で羽田空港・横浜線（館山駅前～羽田空港・横浜駅：8本／日）運行している。

高速バス利用者への駐車場としては、「南総文化ホール」及び「とみうら枇杷倶楽部」に無料駐車場、館山駅周辺に有料駐車場が設置されている。

■ JRバス・日東交通

東京駅ゆき （房総なのはな号）	本数	27
	停留所	伊戸漁港・休暇村前・安房白浜⇔館山駅 ⇔東京駅日本橋口・東京駅八重洲南口
新宿駅ゆき （新宿なのはな号）	本数	11
	停留所	館山駅⇔バスタ新宿（新宿駅新南口）

※館山駅から休暇村・伊戸漁港ゆき、神戸経由安房白浜ゆきは、一般路線バスとして運転

■ 京浜急行バス・館山日東バス

羽田空港・横浜駅ゆき	本数	8
	停留所	館山駅前⇔羽田空港第1ターミナル⇔羽田空港第2ターミナル⇔横浜駅東口

■ ちばシティバス・日東交通・館山日東バス

千葉駅・千葉みなと駅 ゆき	本数	23
	停留所	安房白浜駅・館山駅前⇔千葉駅⇔千葉みなと駅

※各路線の運行本数は、平成31年1月現在

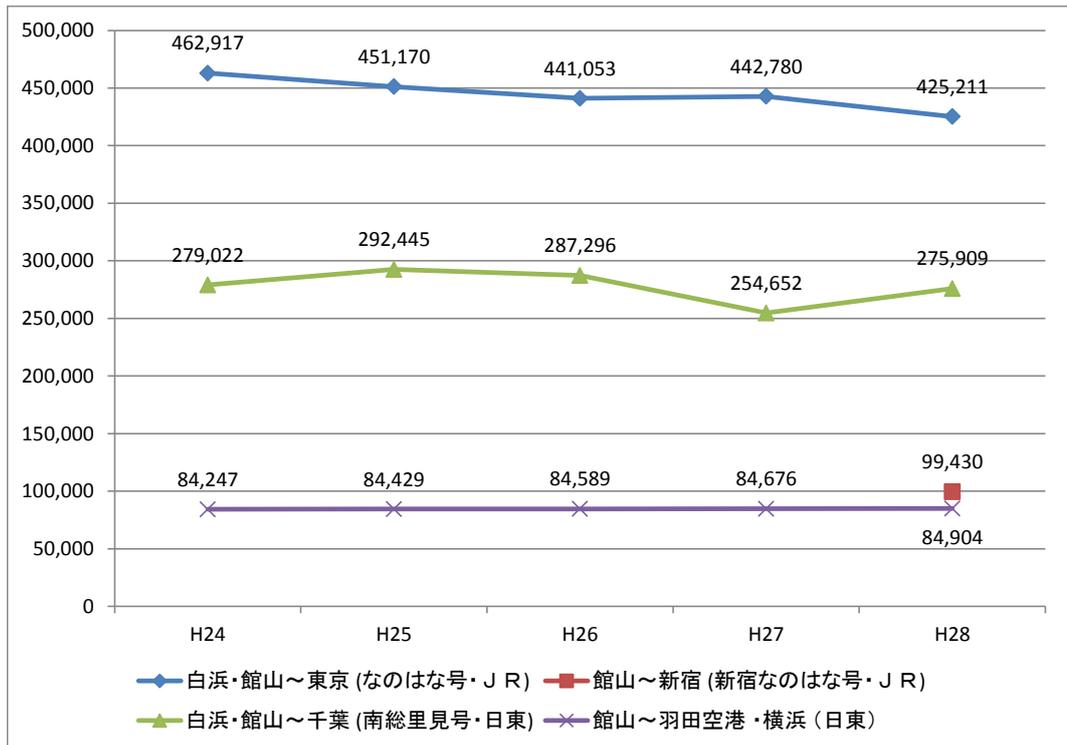


図 高速バス利用者数の推移（単位：人）（資料：館山市統計書）

③スクールバス

スクールバスは、遠距離通学を支援し、小中学生の安全・安心を確保する目的で、以下の5路線が運行されている。

2017年4月に、さかなクンが外装をデザインした「さかなクンバス」がデビューし、出発式が「渚の駅」たてやまで行われた。

車両は、中型及びマイクロが導入されている。

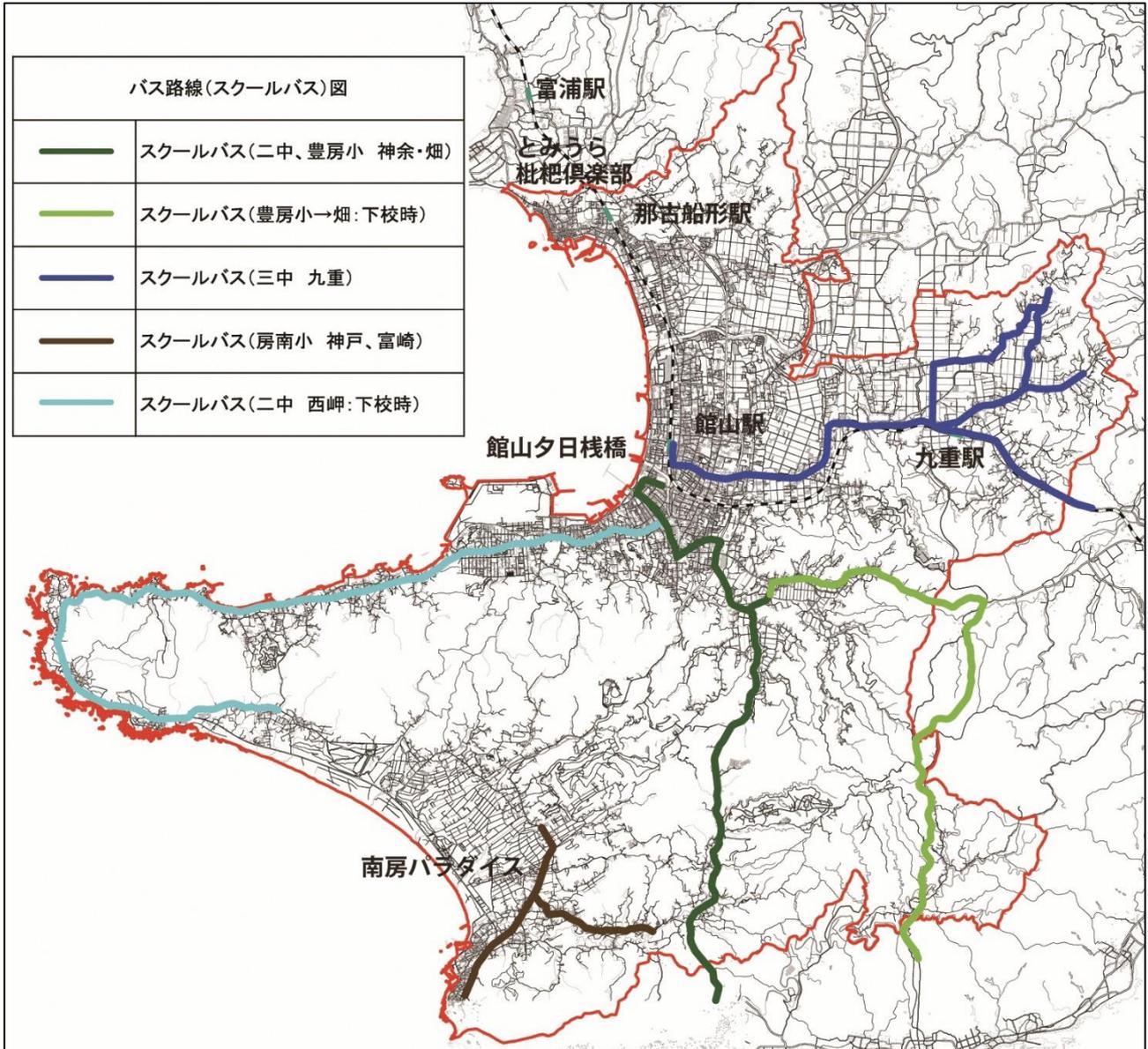


図 スクールバス路線



図 さかなクンバス

⑤鉄道

市内には、館山駅をはじめ、那古船形駅、九重駅の3駅があり、平日・休日ともに20本前後運行しているが、利用者数は減少傾向にある。

表 JR内房線運行本数（資料：JR東日本時刻表 平成31年1月現在）

駅名	方面	平日	土曜・休日
那古船形駅	上り	21	21
	下り	22	21
館山駅	上り	21	23
	下り	18	18
九重駅	上り	17	17
	下り	18	18

※館山駅の土曜・休日上り2本は、特急「新宿さざなみ号」

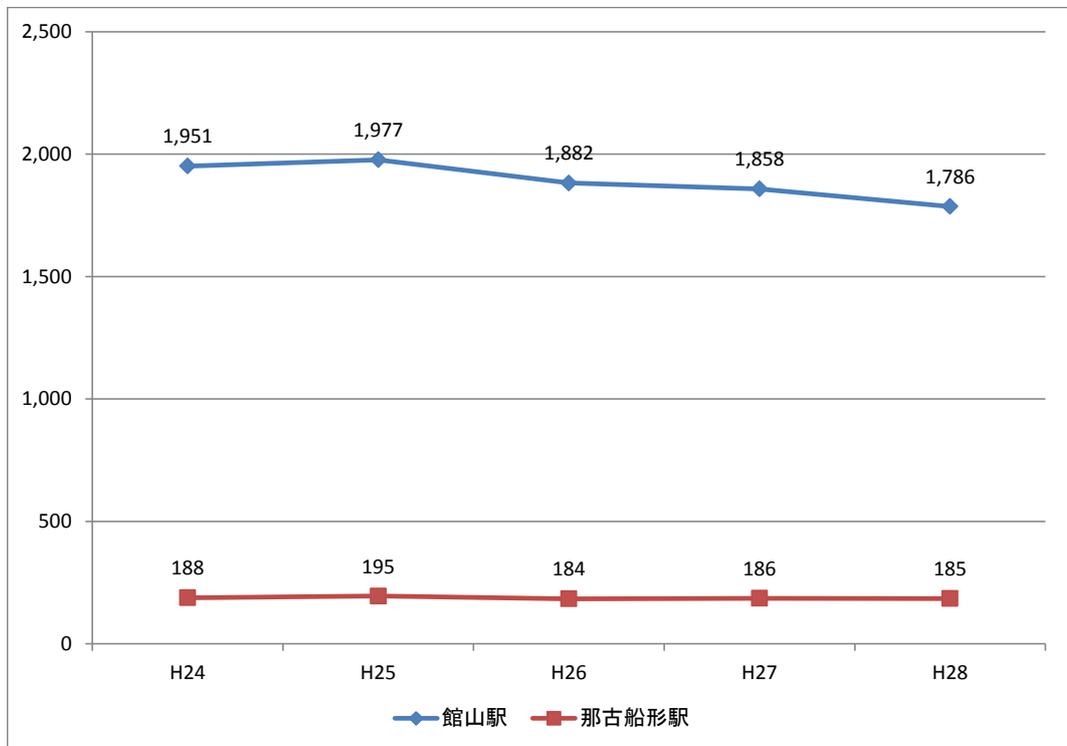


図 駅別輸送状況（単位：人）（資料：館山市統計書）

⑥海上交通

館山港は、東京湾の入口にあり、北・東・南を陸で囲まれ、別名「鏡ヶ浦」と呼ばれるほど波が静かな湾であり、クルーズ客船や高速ジェット船のほか、訓練目的の帆船、実習船などが寄港するほか、海岸沿いには“渚の駅”たてやまがあり、展望デッキ、館山夕日栈橋などが整備された交流拠点となっている。

毎年、小笠原諸島へ行く「おがさわら丸」や客船にっぽん丸、2月～3月の早春には、東京（竹芝）～館山～大島を結ぶ東海汽船（株）の高速ジェット船「セブンアイランド」が寄港する。館山から伊豆大島への利用のほか、所要時間が最も早く（約75分）、渋滞等に左右されないメリットをPRし、東京から館山間の利用促進にも取り組んでいる。

■表 平成30年度館山夕日栈橋への船舶寄港

年月日	船舶名
平成30年4月22日(日)	たかたき
平成30年5月19日(土) 平成30年5月24日(木)	おがさわら丸
平成30年8月8日(水)	にっぽん丸
平成30年9月28日(金)	にっぽん丸

■表 東京⇄館山⇄伊豆大島間高速ジェット船（季節運航）

年月日	船舶名
平成31年2月2日(土) ～3月24日(日)	高速ジェット船 セブンアイランド

出典：館山市HP

■高速ジェット船（季節運航）便のダイヤ等

大島ゆき	運航期間	2/2～3/24
	運行日	毎日：1便 2/10～3/10：1便
東京ゆき	運行日	毎日：1便

運行日		毎日	2/10～3/10
東京	発	8:00	12:50
	着	9:15	14:05
館山	発	9:25	14:10
	着	10:20	15:05

運行日		毎日
大島	発	15:10
	着	15:55
館山	発	16:05
	着	17:25